



琉球大学環境報告書

2025

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
ENVIRONMENTAL/
SUSTAINABILITY REPORT
2025



もくじ contents

学長からのメッセージ	01
I 環境憲章・環境方針	
I-1 基本理念、I-2 具体的行動	02
II 大学概要	
II-1 法人情報、II-2 法人組織図	03
II-3 キャンパスマップ	04-07
II-4 琉球大学の環境マネジメントのあゆみ	08
II-5 エコロジカル・キャンパス（環境活動）の実施体制	09
III 環境負荷	
III-1 マテリアルバランス	10-11
III-2-1 総エネルギー投入量・二酸化炭素排出量	12
III-2-2 電力・都市ガス・A重油等	13
III-2-3 水資源投入量・排出量	14
III-2-4 物質投入量・排出量	15
III-2-5 化学薬品投入量・排出量	16
III-3-1 環境保全のコスト、III-3-2 環境保全効果	17
IV 環境活動の概要	
IV-1-1 年度目標とその達成状況	18
IV-1-2 環境活動の取組	19
IV-1-3 第四期中期目標とその達成状況	
IV-2-1 琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会について	20
IV-2-2 学生委員会2024年度の主な活動報告	21-25
IV-2-3 「第19回環境マネジメント全国学生大会」を開催しました	26
V 環境関連法令等の順守	
V-1 環境関連法令等	27
V-2-1 環境法令順守の取組状況 -契約行為-	28
V-2-2 環境法令順守の取組状況 -化学物質の管理-	29
V-2-3 環境法令順守の取組状況 -医療系廃棄物-	30
V-2-4 環境法令順守の取組状況 -設備等-	31
V-2-5 環境法令順守の取組状況 -安全衛生-	32
VI 評価	
外部評価、内部評価	33
VII 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」との対照表	34
◆ 環境報告書2025ダイジェスト版、刊行物紹介、アンケートへのご協力	35
◆ エコクリーンデー2024の実施状況	
◆ 千原キャンパス・西普天間キャンパスの植栽のようす	36
表紙制作にあたって（学生委員会メッセージ）	37

対象範囲：琉球大学

- ・千原地区
- ・上原地区（2025年4月西普天間へ移転完了）
- ・与那地区
- ・瀬底地区
- ・西表地区
- ・奥地区

対象期間：2024年4月～2025年3月

発行：2025年9月

次回発行予定：2026年9月

参考にしたガイドライン：

環境省 環境報告ガイドライン2018年版

環境省 環境報告書の記載事項の手引き

環境省 環境会計ガイドライン2005年版

環境省 環境報告書に係る信頼性向上の手引き

作成部署：琉球大学施設運営部

〒903-0213

沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地

TEL 098-895-8178

FAX 098-895-8077

E-mail kankyo@acs.u-ryukyu.ac.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



琉球大学は、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals;SDGs) の達成に貢献する活動に取り組み、様々なパートナーと積極的に連携し、持続可能な社会の実現に向けて行動します。

学長からのメッセージ

ここに『琉球大学環境報告書2025』をお届けいたします。本報告書は、2024年度における本学の教職員および学生による環境配慮活動やキャンパスマネジメント等の取り組みを、関係者の皆様に広く報告することを目的として作成しました。私たちの環境への責任と挑戦の歩みをご理解いただければ幸いです。



喜納 育江
琉球大学 学長

琉球大学は開学以来、地域に根ざした教育・研究を展開してきました。亜熱帯島嶼特有の自然環境と、歴史・文化の豊かさを有する学術的価値の高いフィールドを活かし、環境への深い理解と配慮を基盤とした大学運営に日々取り組んでいます。

学術活動においては、沖縄という地域特性を活かした「Island Wisdom（島嶼の智慧）」の創出と発信を通じて、環境課題の解決に資する知の蓄積と社会への還元を推進しています。自然との共生をテーマにした多様な研究は、基礎から応用に至るまで幅広く展開されており、地域との協働を基盤に、地域とともに豊かな未来社会をデザインする「地域貢献型大学」としての役割を積極的に果たしています。

キャンパス整備においても、環境への配慮を重視しています。将来に向けた長期的なキャンパスの整備計画を定めた「キャンパスマスタープラン」では、千原キャンパスが自然と融和した美しい景観を保ちながら、賑いが生まれ、地域社会との活発な交流の場・共創の場となることを目標としています。また、西普天間キャンパスでは、医療人材の育成と高度先進医療を提供する拠点として、地域に根差した新たな価値の創造を図っています。

環境への配慮の観点では、SDGsの理念である「すべての人の人権尊重」や、DE&I（多様性・衡平性・包括性）といった世界基準の価値観を大学構成員間で共有し、組織運営に活かすことで、新しい時代の意識を備えた大学へ変革を進めています。これにより、持続可能な社会の実現にも積極的に寄与します。

さらに、地域との共生と発展に貢献することをミッションとする「ランド・グラント大学」として、地域社会およびグローバル社会とのパートナーシップや連携を強化し、Society 5.0以降の多種多様な社会において、知の拠点としての本学のプレゼンスを高めていくことを目指しています。

琉球大学は、今後も多面的な取り組みを通じて沖縄の自然と文化を尊重し、環境への配慮と調和を重んじた大学運営に努めてまいります。そして、持続可能な社会の実現に向けて、次世代に誇れる未来を創造するために、教育・研究機関としての社会的責任を果たすと同時に、人材育成と地域・国際社会への貢献を両立していく所存です。

引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

お知らせ

これまで環境報告書へ掲載していた一部の項目については、統合報告書へ移動しました。こちらより、ご覧ください。

琉大の刊行物 > 広報誌 > 琉球大学統合報告書 2025



【表紙制作・デザイン】

琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会

表紙の制作については、エコキャン学生委員会委員からのメッセージが込められています。詳細は p.36 にあります。



I 環境憲章・環境方針

I-1 基本理念

琉球大学環境憲章（平成13年4月24日制定）

人間は、「地球」という生態系の一部として存在している。エコロジーの語源であるギリシャ語のオイコス(oikos)が、「家」を意味するように、地球は、多種多様な生命体の相互存在的な繋がりによって営まれるひとつの共同体である。亜熱帯の琉球弧に位置する沖縄は、ニライカナイ信仰など独特の自然観や世界観によってその豊かな文化を育んできた。地球のエコロジーという観点に立脚して琉球大学は、教育、研究、そして社会貢献の在りようを未来へと発展させていくことを宣言する。

1	自然との共存 自然を愛し、自然と共に生きる地球市民としての自覚と誇りをもって行動する。
2	ひと・対話 生命と文化の多様性を讃え、他者との対話を知の源泉とする多文化共存の環境をつくる。
3	教育・学習 地球社会の未来を担う自主性と想像力、創造力にあふれる人材が育つ教育・学習環境をつくる。
4	研 究 地球市民としての知を追究する真のアカデミズムにあふれる研究環境をつくる。
5	大学の社会的責務 循環と共生を基調とした持続可能な社会を実現する地域のコミュニティ・モデルとなる。

I-2 具体的行動

琉球大学環境方針（平成18年10月18日制定）（令和3年10月7日改正）

琉球大学は、「琉球大学環境憲章（平成13年4月24日制定）」において示された基本理念に基づき、持続可能な社会の形成に向け、学生と教職員が一体となって以下の環境行動を推進する。

1	総合大学の強みを生かし、人と自然、社会、そして文化を融合する環境教育に関わるカリキュラムを整備する。
2	生物多様性の保全と持続的な利用のための国際ルールを遵守しつつ、島嶼・亜熱帯地域の自然生態系と人間活動に関する学術研究を推進する。
3	地域社会と連携し、環境に関連する啓発教育、技術の普及等に努める。
4	自然生態系の保全に配慮した美しいキャンパス景観をつくる。
5	環境マネジメントシステムを構築し、教育・訓練を実施して、システムの継続的改善を図る。
6	環境関連法規・規制・協定等を遵守し、大学が環境に与える負荷を減らすとともに、環境問題の発生を予防する。
7	資源の効率的利用（省資源、省エネ、節水、リサイクル等）に努め、脱炭素社会に向けた取組み、水体系の水質保全、廃棄物の排出量削減への取組み、化学物質の使用・廃棄に関する適正管理を行う。
8	環境報告書、公式ホームページ等を通じ、学内外における良好な環境コミュニケーションの形成に取り組む。

琉球大学 学長 喜納 育江

II 大学概要

II-1 法人情報

(1) 事業者名及び代表者氏名

事業者名 国立大学法人琉球大学
所在地 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
代表者 学長 喜納 育江

(2) 構成員（2025年5月1日時点）

学生数		教職員数	
学部学生	6,998	教員	793
大学院生（修士・博士前期課程）	467	附属学校教諭（小・中学校）	53
大学院生（博士・博士後期課程）	277	職員（看護師等含む）	1,509
専門職学位課程	77	合 計	2,355
鹿児島大学大学院連合農学研究科	18	・学校基本調査票に基づく （鹿児島大学大学院連合農学研究科を除く） ・鹿児島大学大学院連合農学研究科は、 農学部学務情報に基づく	
専攻科	0		
附属学校（小・中学校）	1,049		
合 計	8,886		

(3) 事業目的

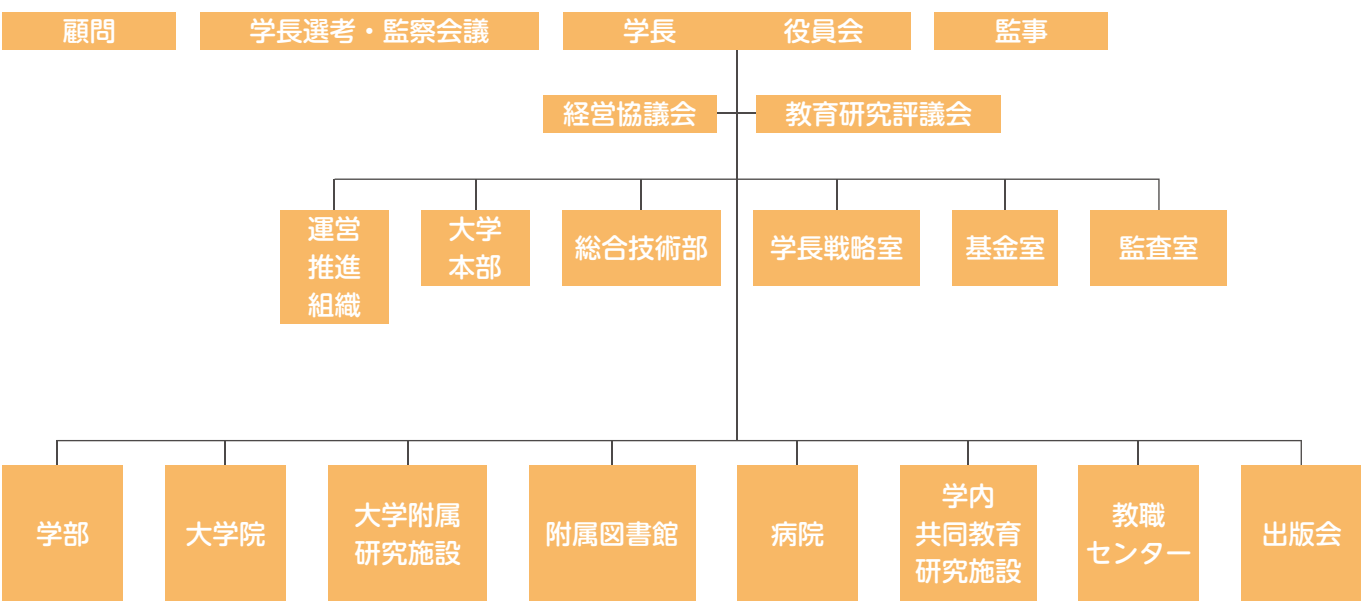
基本理念

琉球大学は、建学の精神である「自由平等、寛容平和」を継承・発展させて、「真理の探求」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」を基本理念とする。

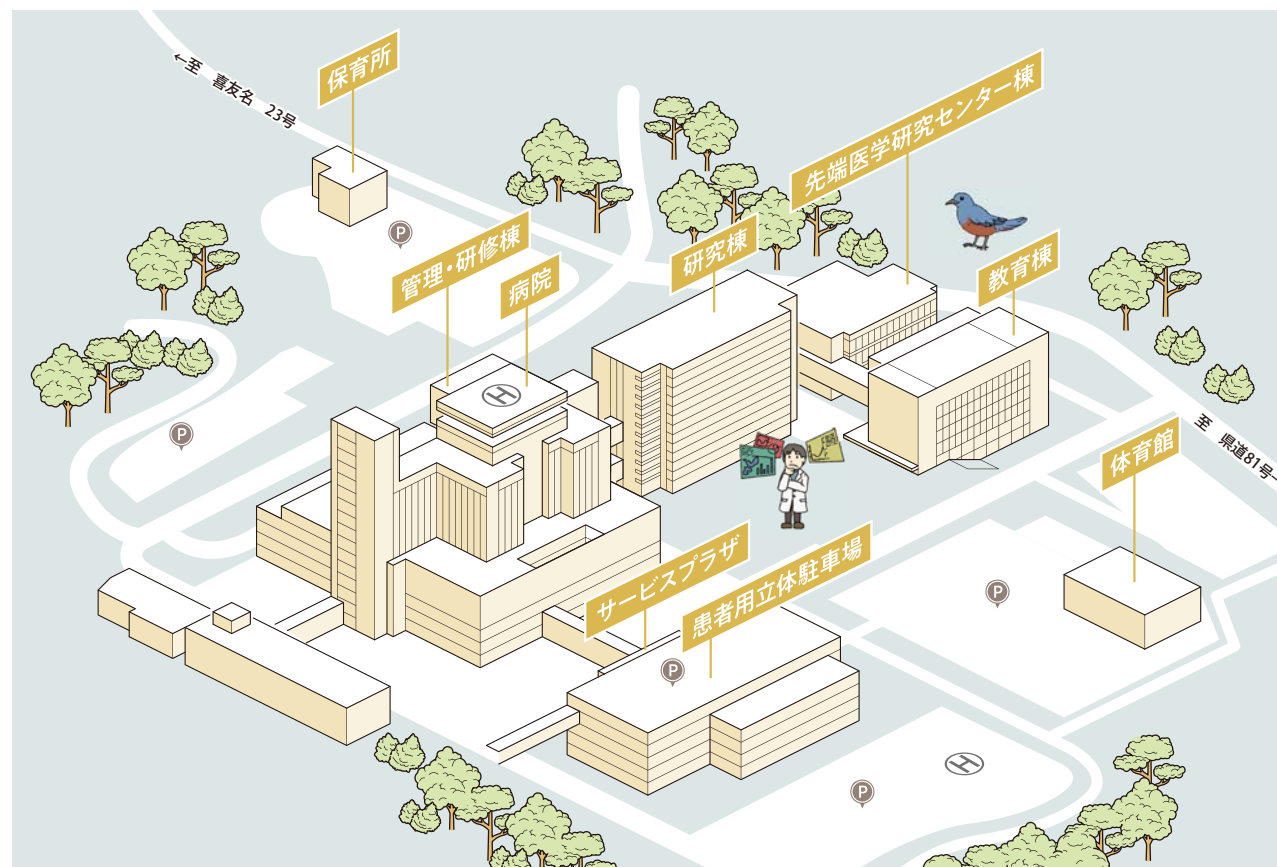
琉球大学の目指すところ－Vision－

本学は、“Land Grant University”の理念のもと、地域との共生・協働によって、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、新しい学術領域であるTropical Marine, Medical, and Island Sciences（TIMES：熱帯島嶼・海洋・医学研究）の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指します。

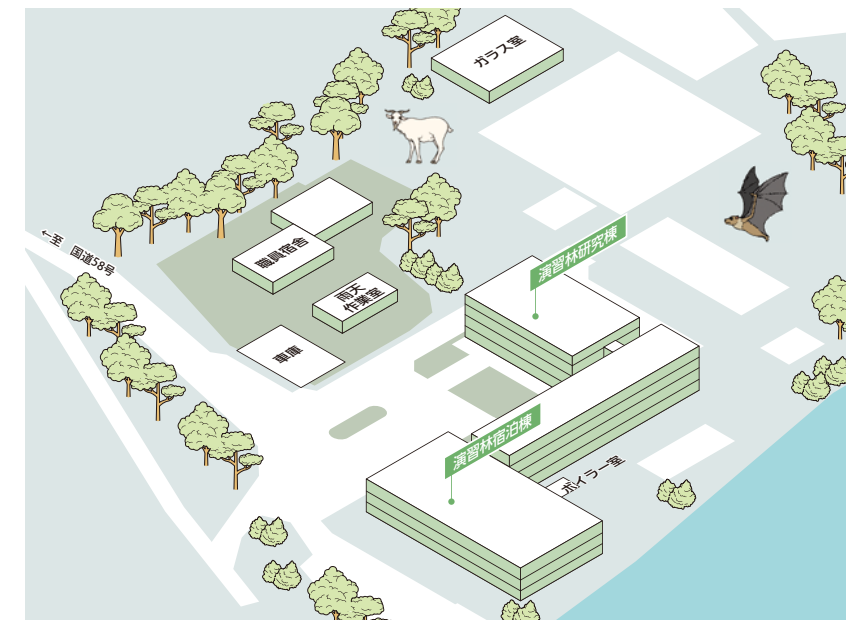
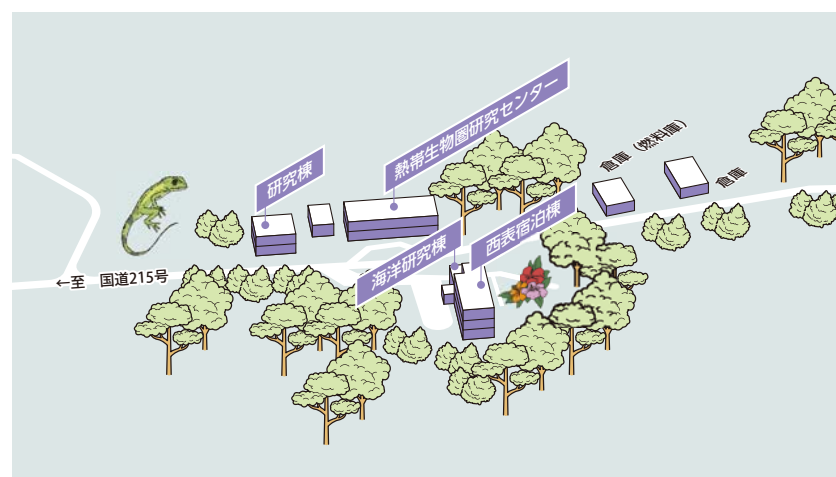
II-2 法人組織図（2025年5月1日時点）



西普天間キャンパス（医学部・病院）



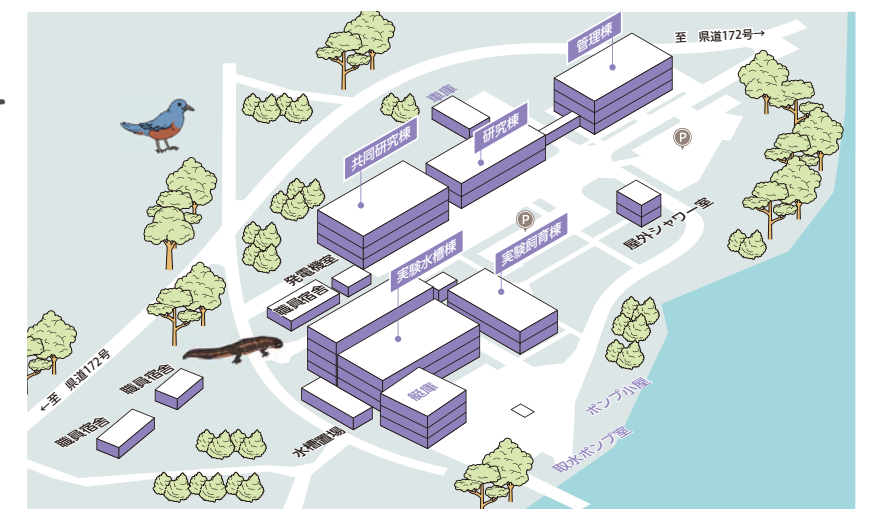
熱帯生物圏研究センター 西表研究施設



亜熱帯フィールド 科学教育研究センター 与那フィールド



熱帯生物圏研究センター 瀬底研究施設



熱帯生物圏研究センター 西表研究施設



熱帯生物圏研究センター 瀬底研究施設



II-4 琉球大学の環境マネジメントのあゆみ

琉球大学は、戦後復興・教育振興への沖縄県民及び県系人らの強い思いをうけ、1950年5月22日、戦火で焼失した首里城跡地に開学しました。開学後はミシガン州立大学の支援のもと、「地域振興」を主題とするランド・グラント大学という理念に基づき成長してきました。

持続可能な社会への貢献

SDGs 推進室が SDGs 推進本部へ昇格

2024

審議委員会を
環境・施設マネジメント委員会に統合

2022

SDGs 推進室を組織

2020

2020 開学 70 周年

学長メッセージ「琉球大学における
SDGs への取組について」を発信

2019

2015 資料館（風樹館）が博物館に昇格

EA21 から大学独自の
マネジメントシステムに移行

2013

全学で EA21 の認証・登録

2009

国立大学初のエコアクション 21
(EA21) の認証・登録

2007



大学附属資料館（首里キャンパス）

琉球大学環境憲章の制定、
エコロジカル・キャンパス推進委員会の
発足

2001

2004 国立大学から国立大学法人に移行



開学当時の首里キャンパス

1977 西原町千原にキャンパス移転

1972 沖縄本土復帰に伴い国立大学になる

1967 全国に先駆け大学附属の資料館を設置

1950 5月 那覇市首里に開学



博物館（風樹館）



千原キャンパス

II-5 エコロジカル・キャンパス（環境活動）の実施体制

●体制図

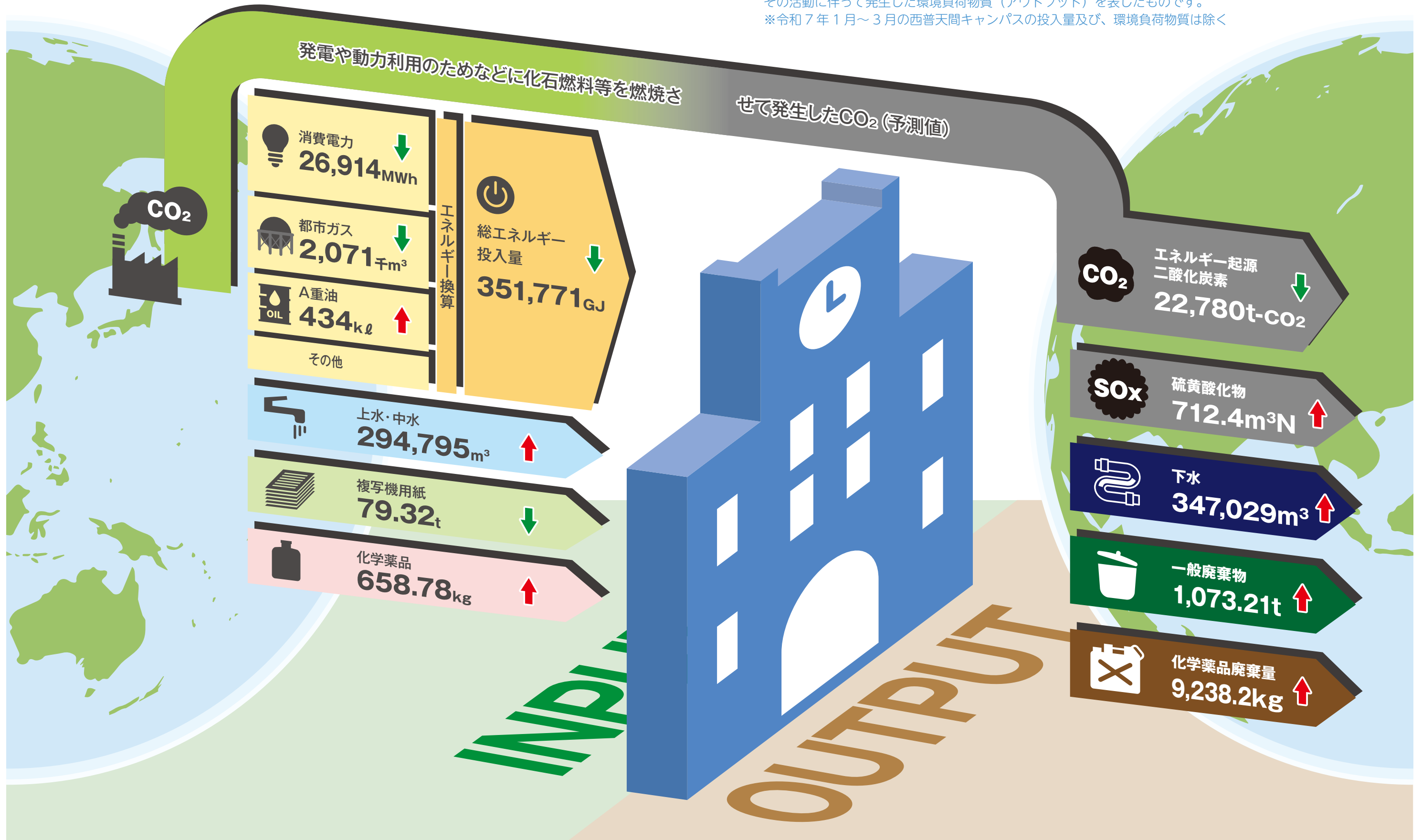


●環境管理責任者及び担当者連絡先

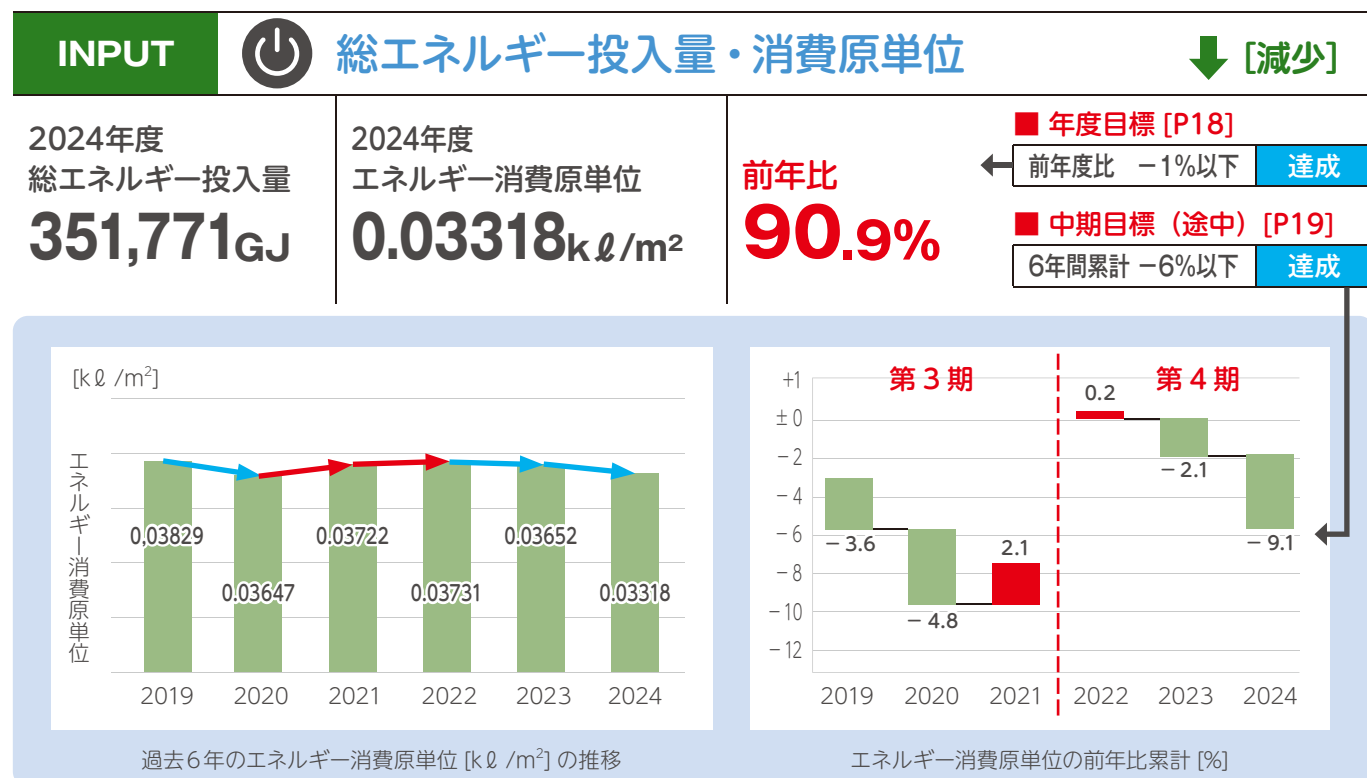
統括責任者／理事・副学長（施設担当） 島居 剛志
担 当 者／環境・施設マネジメント室長 國場 善孝
住 所／沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
電 話／098-895-8178

III-1 マテリアルバランス

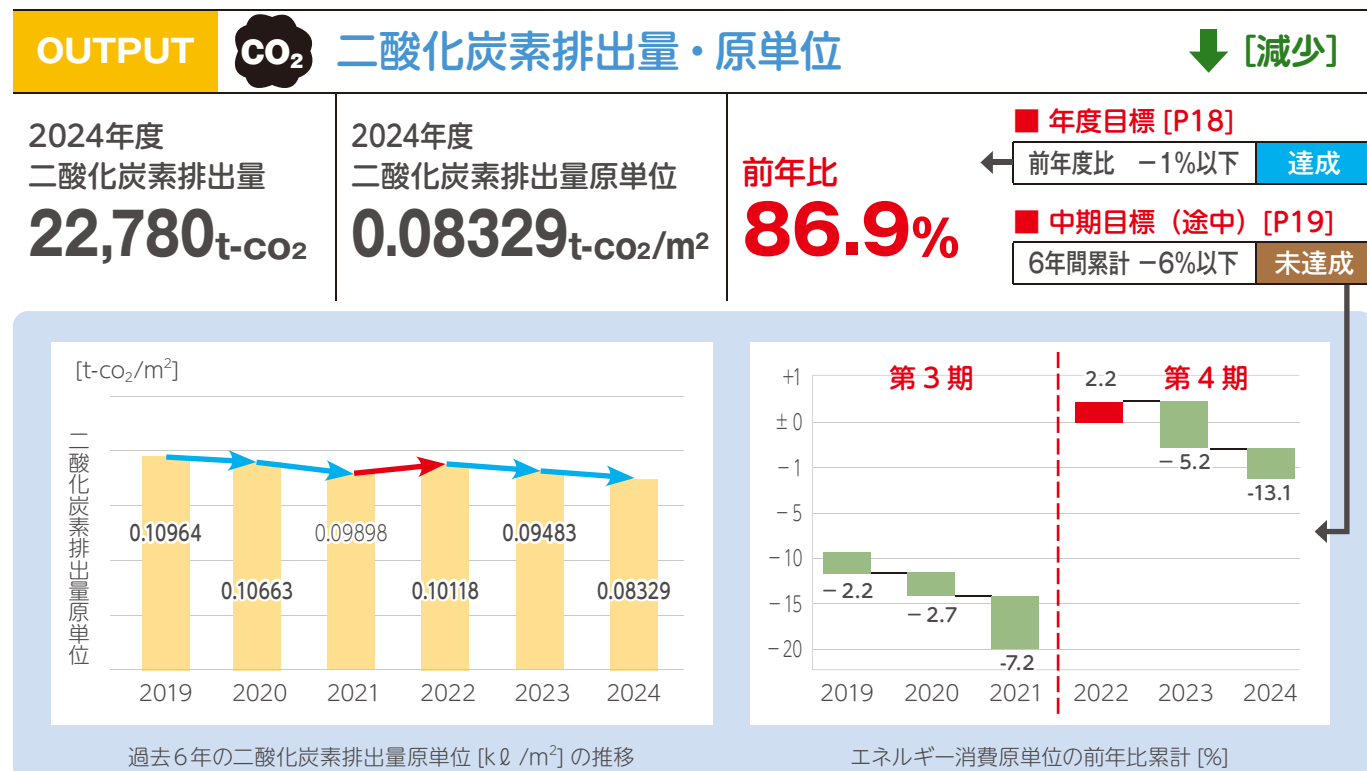
マテリアルバランスとは、琉球大学の1年間の事業活動におけるエネルギー及び資源の投入量（インプット）と、その活動に伴って発生した環境負荷物質（アウトプット）を表したものです。
 ※令和7年1月～3月の西普天間キャンパスの投入量及び、環境負荷物質は除く



Ⅲ-2-1 総エネルギー投入量、二酸化炭素排出量

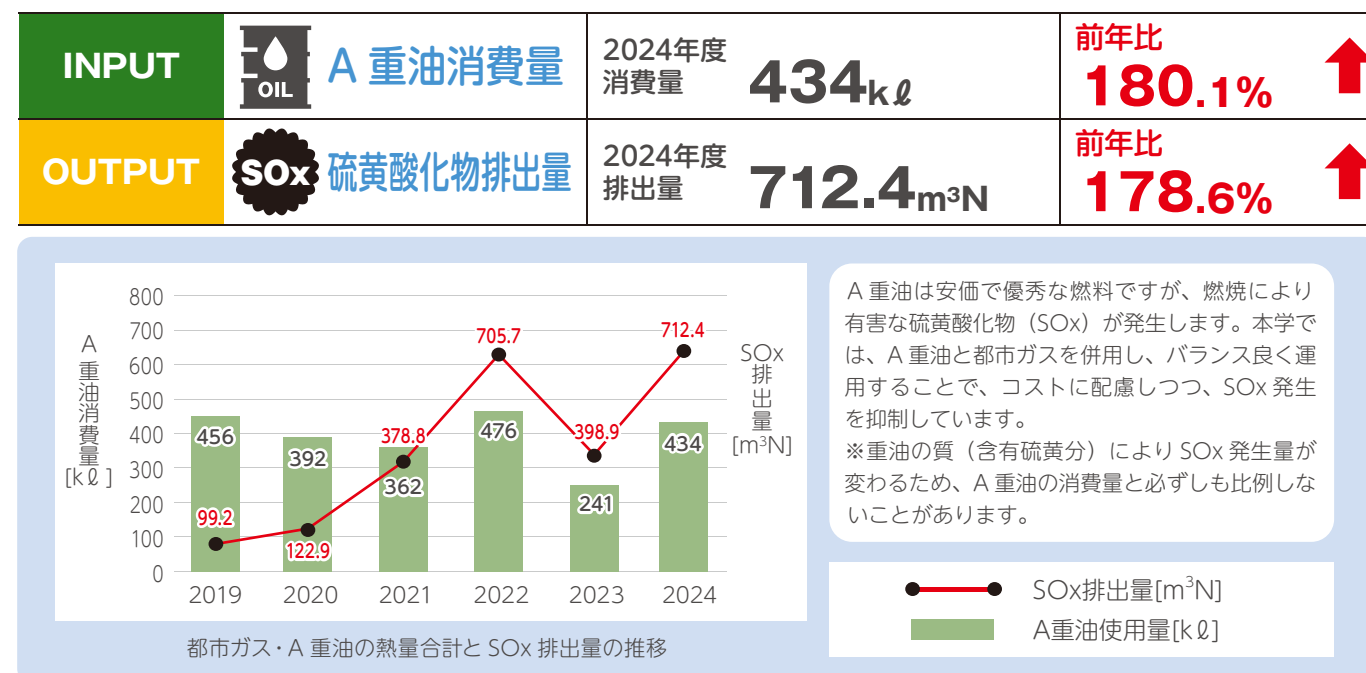
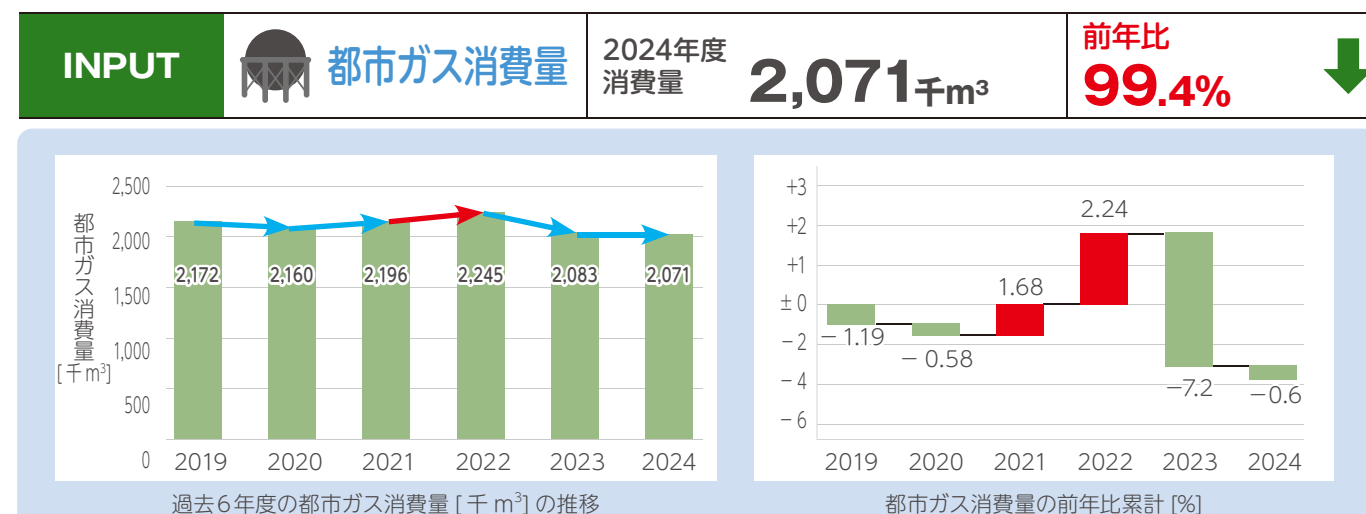
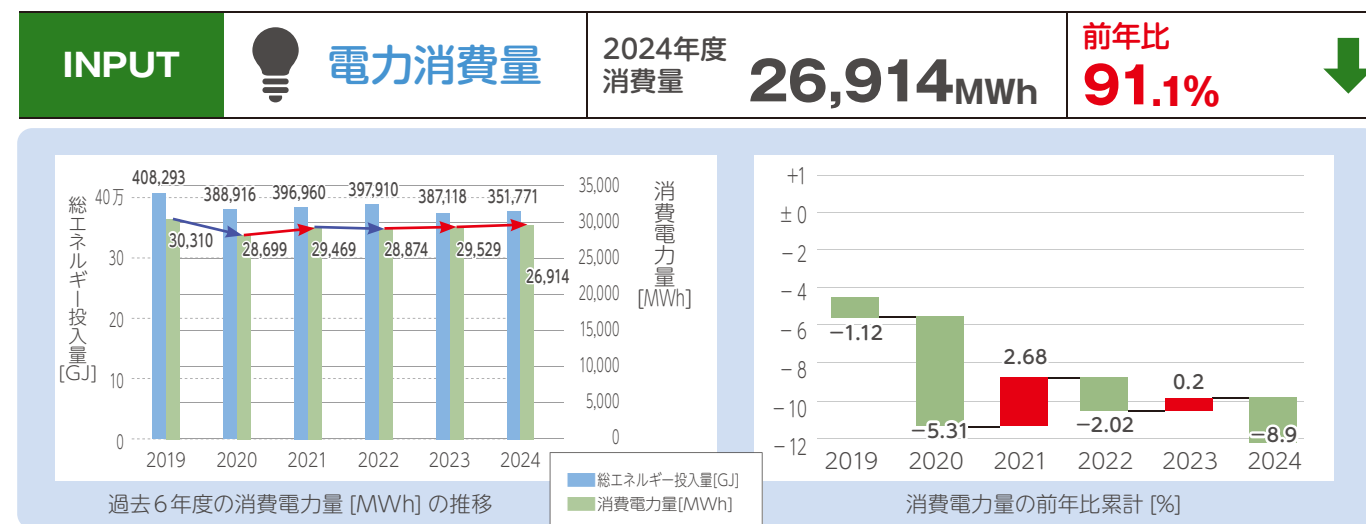


●本書の「総エネルギー投入量」は、電気・都市ガス・A重油・ガソリン、軽油等の消費量を熱量に換算したものをいいます。
 ●本書の「エネルギー消費原単位」は、活動量（本報告では延床面積）あたりのエネルギー投入量（原油単位）をいいます。
 ※西普天間キャンパスエネルギー投入量（令和7年1～3月分）は除く



●本書の「二酸化炭素排出量」は、電気・都市ガス・A重油・ガソリン、軽油等の消費量を二酸化炭素排出量に換算したものをいいます。
 ●本書の「二酸化炭素排出量原単位」は、活動量（本報告では延床面積）あたりの二酸化炭素排出量をいいます。
 ※西普天間キャンパス二酸化炭素排出量（令和7年1～3月分）は除く

Ⅲ-2-2 電力・都市ガス・A重油等

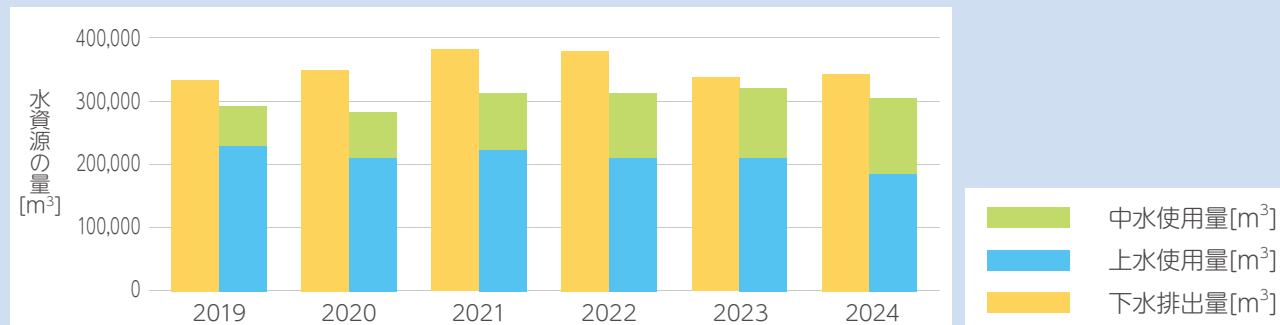


Ⅲ-2-3 水資源投入量・排出量

INPUT	 上水	2024年度 使用量	196,903m ³	前年比 89.5% ↓	前年度比 -0.5%	年目標 達成
INPUT	 中水	2024年度 使用量	97,892m ³	前年比 97.0% ↓		
OUTPUT	 下水	2024年度 排出量	347,029m ³	前年比 101.4% ↑	前年度比 -0.5%	年目標 未達成

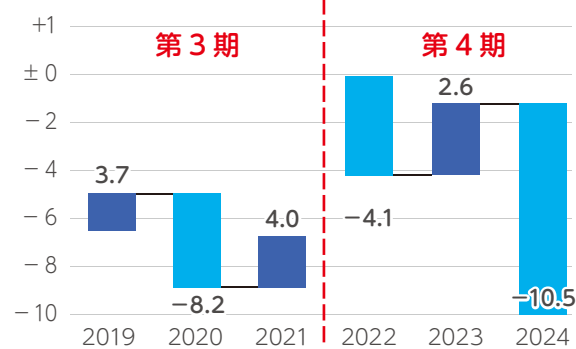
●「中水」とは、雨水などを利用した飲用しない機器用水をいいます。本報告書では、送水量（ろ過して各施設に送った水量）を計上しています。
※西普天間キャンパス水資源（令和7年1～3月分）は除く

	INPUT				OUTPUT	
	上水		中水	合計	下水	
	使用量 [m ³]	前年比 [%]	送水量 [m ³]		排出量 [m ³]	前年比 [%]
2019	234,213	103.7	61,069	295,385	324,712	103.2
2020	215,100	91.8	62,282	277,474	346,206	106.6
2021	223,598	104.0	92,828	316,530	386,381	111.6
2022	214,359	95.9	99,117	313,571	382,394	99.0
2023	219,892	102.6	100,886	320,778	342,402	89.5
2024	196,903	89.5	97,892	294,795	347,029	101.4



■ 中期目標（途中）[P19]

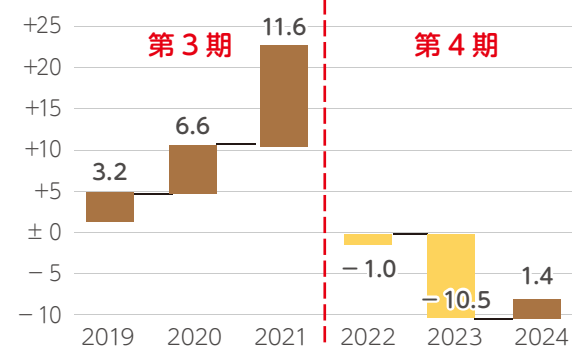
6年間累計 -3% 達成



上水使用量の前年比累計 [%]

■ 中期目標（途中）[P19]

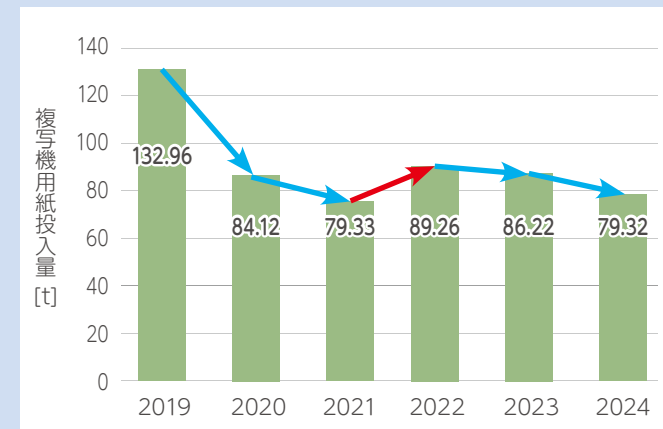
6年間累計 -3% 達成



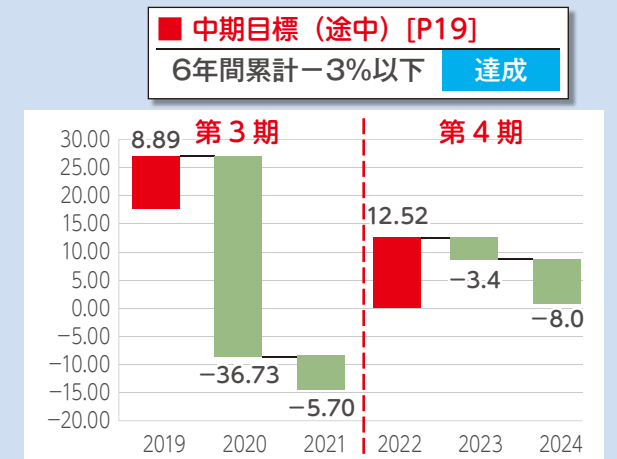
下水排出量の前年比累計 [%]

Ⅲ-2-4 物質投入量・排出量

INPUT	 複写機用紙	2024年度 投入量	79.32t	前年比 92.0% ↓	前年度比 -0.5%以下	年目標 達成
-------	---	---------------	--------	----------------	-----------------	-----------



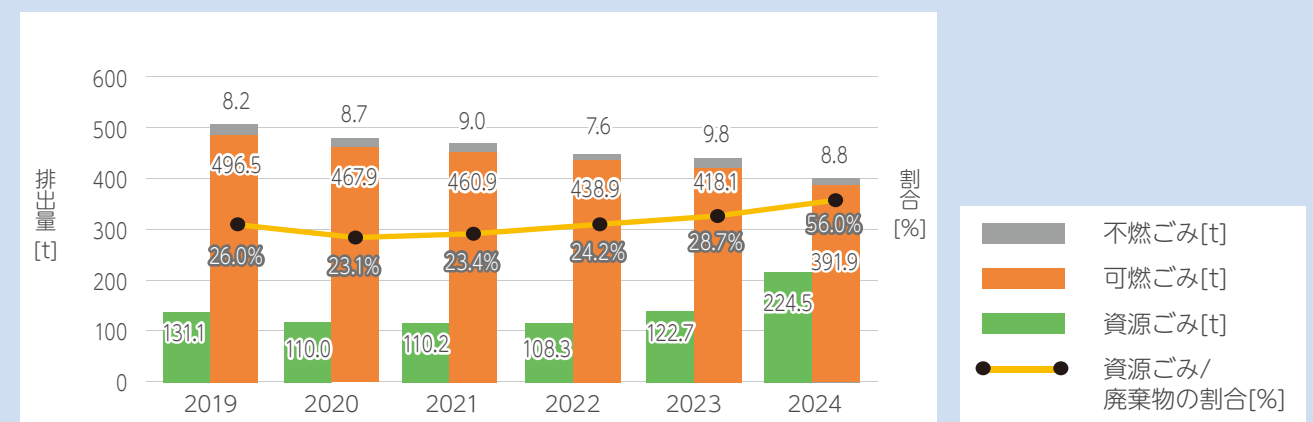
過去6年度の複写機用紙投入量 [t]の推移



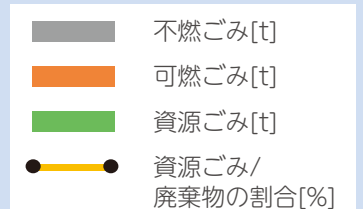
複写機用紙投入量の前年比累計 [%]

OUTPUT	 一般廃棄物	2024年度 排出量	400.7t	前年比 93.6% ↓		
OUTPUT	 リサイクル資源	2024年度 排出量	224.5t	前年比 183.0% ↑		

	一般廃棄物				資源ごみ [t]	リサイクル割合
	可燃ごみ [t]	不燃ごみ [t]	合計 [t]	前年比 [%]		
2019	496.5	8.2	504.70	100.7	131.1	26.0%
2020	467.9	8.7	476.58	94.4	110.0	23.1%
2021	460.9	9.0	469.96	98.6	110.2	23.4%
2022	438.9	7.6	446.50	95.0	108.3	24.2%
2023	418.1	9.8	427.84	95.8	122.7	28.7%
2024	391.9	8.8	400.70	93.6	224.5	56.0%

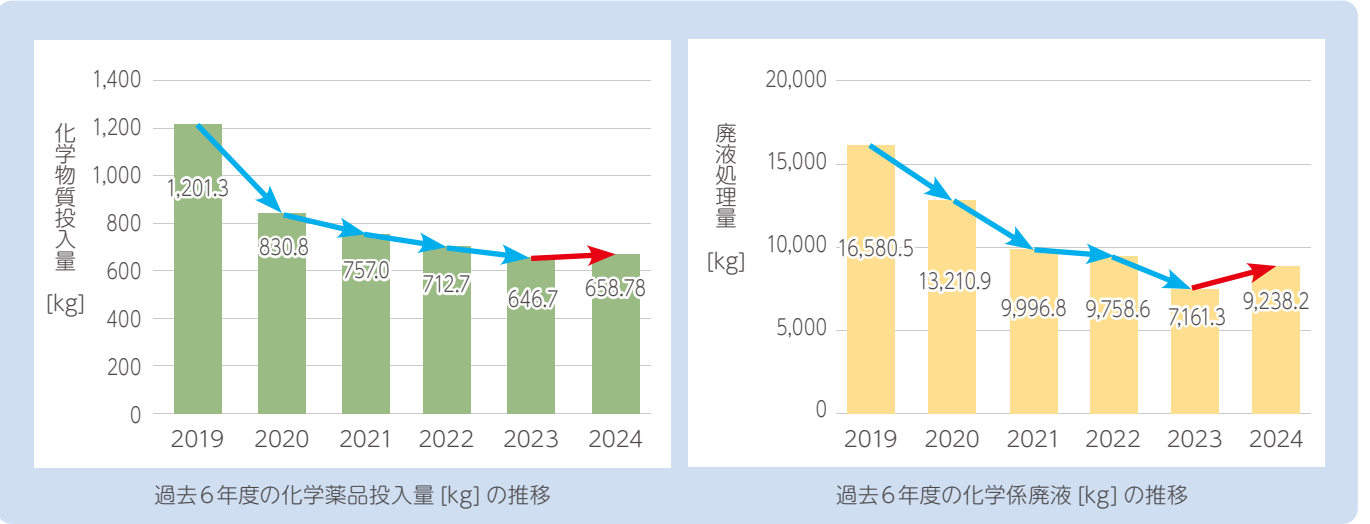


過去6年度の一般廃棄物排出量（可燃＋不燃）[t]と資源ごみ量 [t]の推移



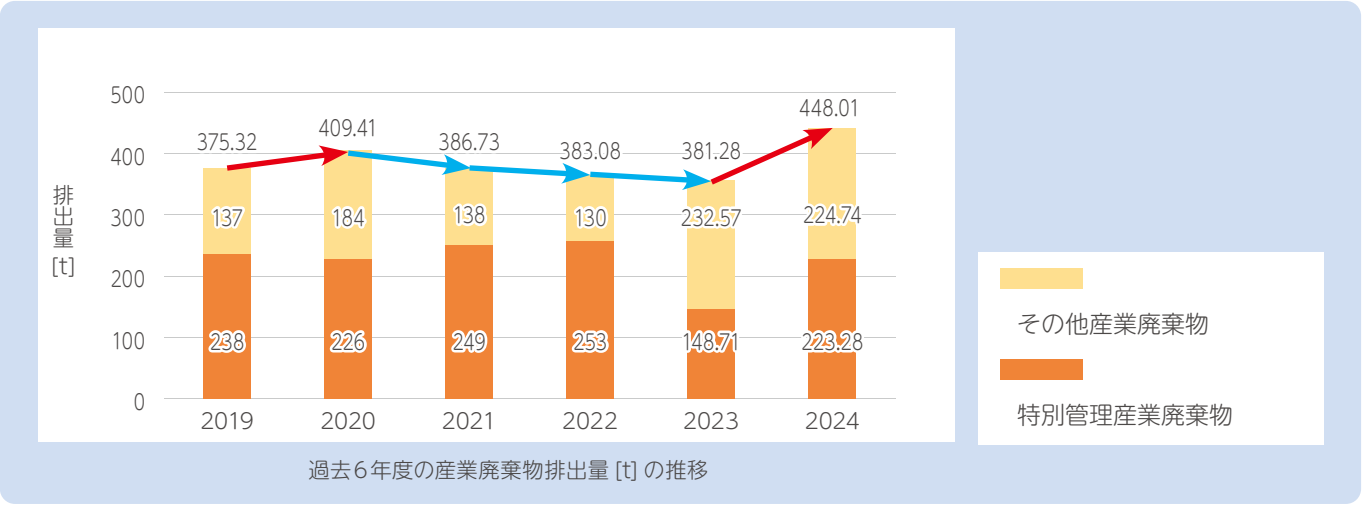
Ⅲ-2-5 化学薬品投入量・排出量

INPUT	 化学薬品投入量	2024年度 投入量	658.78kg	前年比 101.1% ↑
OUTPUT	 化学薬品排出量	2024年度 排出量	9,238.2kg	前年比 129.0% ↑



- 「化学物質の投入量」は、PRTR 法で第一種化学物質と指定された薬品の生産・利用量です。
- 上記の化学薬物投入量と廃液の詳細はV章「法令順守」に掲載しています。
- 2024 年度はキャンパス移転事業のため、例年の 4 倍以上の試薬の回収・廃棄がありました。

OUTPUT	 産業廃棄物排出量	2024年度 排出量	448.01t	前年比 117.5% ↑
--------	--	---------------	---------	-----------------



- 「特別管理産業廃棄物」には、指定された化学薬品廃棄物及び感染性廃棄物を含みます。
- 「その他産業廃棄物」には、その他化学薬品廃棄物、非感染性廃棄物を含みます。

Ⅲ-3-1 環境保全のコスト

分 野	金額 (千円)	内容
①公害防止コスト	32,545	大気汚染防止 (排ガス測定等) 水質汚濁防止 (水質測定)、排水処理施設維持管理等
②地球環境保全コスト	108,778	地球温暖化防止省エネルギー対策工事等
③資源循環コスト	105,073	廃棄物及び実験廃液等の処理費
④管理活動コスト	12,684	環境マネジメント活動、自然保護、緑化、美化等
⑤環境損傷対応コスト	93	汚染負荷量賦課金
合計	259,173	

●環境会計を導入していないため、本学の財務会計システムデータより項目別に抽出したコストを集計

Ⅲ-3-2 環境保全効果

効果	環境保全効果の指標			
	指標の分類	2024 年度	2023 年度	前年比
(1) 事業活動に投入する資源に関する効果	①総エネルギー投入量 [GJ]	351,771	383,120	↓ 91.8%
	②水資源投入量 [千 m ³]	294	320	↓ 91.9%
(2) 事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	①二酸化炭素排出量 [t-CO ₂]	23,049	25,937	↓ 88.9%
	②廃棄物等総排出量 [t]	1,073	932	↑ 115.1%
	③総排水量 [千 m ³]	347	342	↑ 101.5%

- 「水資源投入量」は、上水、中水投入量の合計
- 「廃棄物等総排出量」は、一般廃棄物、リサイクル資源、産業廃棄物の合計
- ※ 西普天間キャンパス (令和 7 年 1 ～ 3 月分) は除く

IV 環境活動の概要

IV-1-1 年度目標とその達成状況

本学では、環境目標として中期目標と年度目標と定め、環境・施設マネジメント委員会にて、PDCA アクションのうち、実績の振り返り（アクション）と次の目標設定（プラン）を例年行っています。

(1) 2024 年度目標と達成状況（マテリアルバランスに関するもの）

	環境側面 (要因)	方針 No (*1)	環境影響項目	達成 / 未達成	KPI	2024 年度目標	2024 年度実績	報告書 該当部分
INPUT	エネルギー投入	7	電力消費量の削減	達成	エネルギー消費原単位 (注 1)	前年度比 - 1 %	- 9.1% R5:0.03652 [kL/m ²] R6:0.03318 [kL/m ²](*)2)	12 13
			ガス使用量の削減					
			A 重油、ガソリン、軽油使用量の削減					
	物質投入	7	用紙類の使用量削減	達成	用紙使用量 (重量)	用紙類 (コピー用紙) の使用量を抑制	- 9.2% R5:86.2 [t] R6:79.3 [t](*)2)	15
	水資源投入	7	水使用量の削減	達成	上水使用量	前年度比 - 0.5%	- 10.5% R5:219,892 [立方 m] R6:196,903 [立方 m](*)2)	14
	製品の購入	6、7	グリーン購入の促進	達成	特定調達品目の適合品購入率	100%	100%	28
OUTPUT	化学物質の使用	7	化学物質使用量 (取扱量) の抑制	達成	—	化学物質使用量 (取扱量) の適正化	研究基盤統括センターにて化学物質管理システム (CRIS) を用いた数値管理を実施	16、29
	二酸化炭素排出	7	電力消費量の削減	達成	単位床面積あたりの二酸化炭素排出量 (注 2)	前年度比 - 1 %	- 11.9% R5:0.09590 [tCO ₂ /m ²] R6:0.08444 [tCO ₂ /m ²](*)2)	12 13
			ガス使用量の削減					
			A 重油、ガソリン、軽油等使用量の削減					
	廃棄物	6、7	一般廃棄物量 (可燃ゴミ、不燃ゴミ) の削減	達成	—	リサイクル化の促進	ペットボトルキャップ 240kg (回収時計量) をリサイクル	15 16 25
			産業廃棄物、特別管理産業廃棄物量の削減	達成				
			感染性産業廃棄物量の減量化	達成	—	感染性産業廃棄物 (注 3) の適正処理	特別管理産業廃棄物として県に毎年処理状況を報告 (6 月頃)。なお 2024 年度廃棄量は 216.8[t] (前年度比 -4.6%) (*)2)	30
	総排水量	7	総排水量の削減	未達成	総排水量	前年度比 - 0.5%	+1.4% R5:342,402 [立方 m] R6:347,029 [立方 m](*)2)	14

(2) 2024 年度目標と達成状況（その他）

環境側面 (要因)	方針 No(*1)	環境影響項目	2024 年度目標	2024 年度実績	報告書 該当部分
廃棄物管理	6、7	産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の管理	廃棄物の適正管理	法令に基づき、産業廃棄物マニフェストを受領し適正管理	15、16
化学物質管理	6、7	化学物質の安全・適正管理	化学物質の安全管理	研究基盤センターにおいて、令和 6 年度化学物質講習会を開催	16、29
環境教育・研究、環境保全活動等	1、2 3、4	環境教育・研究等	①エコマインドを持った学生を育成するためのカリキュラム編成 ②沖縄の特性を活かした自然生態系保全、環境技術及び教育・社会システムに関する学術研究の促進	総合環境学副専攻の必修科目「環境インターンシップⅠ」(総 57) と自由科目「環境インターンシップⅡ」(総 58) を開講	—
		地域社会との連携	地域連携による環境理論・技術の応用及び成果の公表	シェアサイクルを活用した新たな交通環境の創造による行動変容	—
		環境保全	キャンパスの環境・緑地保全の促進	「琉球大学緑地管理計画」に基づき緑地保全を実施	37
環境マネジメントシステム	5、8	環境マネジメントシステムの構築、運用、維持	エコロジカル・キャンパスの PDCA サイクルの実施による継続的な改善	環境活動マニュアルに基づき実施	9
環境配慮のキャンパスライフ	4	受動喫煙防止	大学敷地内での喫煙禁止	令和 2 年度 4 月より敷地内全面禁煙	32
		キャンパス内美化	キャンパス内美化の実施	令和 6 年度エコクリーンデーを実施	21、37

*1 方針 No：各指標が「琉球大学環境方針」(p.2) において該当する項目を表す。
*2 2025 年 1 ～ 3 月分における西普天間キャンパス分は含めず。
注 1 「本学の事業活動に必要なエネルギー単位」という指標。使用した電力・燃料などから換算したエネルギー消費量を「事業者が決める任意の単位 (本学では床面積)」で除したもの。
注 2 「本学の活動で発生した二酸化炭素の単位」という指標。使用した電力・燃料などを「事業活動に必要な形で利用するために発生した CO₂」として換算したもの。
注 3 医療関係機関等から生じ、人が感染するおそれのある病原体が含まれていたり付着している廃棄物等。

IV-1-2 環境活動の取組

環境側面	2024 年度 環境活動の取組	報告書該当部分
エネルギー投入	・計画的な建物等改修工事実施及び省エネ効果の検証	12、13
	・毎月の光熱水使用状況周知及び省エネへの励行	
	・エネルギー管理標準に基づく空調適温化の厳守 (冷房 28℃、暖房 19℃)	
	・複合機、パソコン等の省電力設定及び待機消費電力停電対応	
	・常時稼働台数の抑制	
	・高効率空調機への更新及びフィルタ等の定期的な清掃	
	・エレベーター使用ルールの徹底 (階段利用を 2Up3Down)	
	・LED 照明への更新	
	・夏季軽装執務の励行	
	・不必要な部屋の施錠及び使用機器の停止	
物質投入	・節電への呼びかけ	15
	・ペーパーレス化 (文書の電子化)	
水資源	・毎月の複写機用紙使用状況周知	14
	・節水の励行	
	・毎月の水使用量状況周知	
製品購入	・グリーン購入の促進	28
	・化学物質使用量 (取扱量) の抑制	16、29
二酸化炭素排出	・再生可能エネルギーの利用促進	12、13
	・琉大祭におけるカーボン・オフセットの実施	
	・沖縄県 CO ₂ 吸収量認証制度における認証	
廃棄物	・エコロジカル・キャンパス学生委員会における回収活動 (リ・リパック、ペットボトルキャップ、コンタクトレンズの空ケース等)	15、21 30、31
	・環境配慮製品の優先購入及び使用の励行	
	・建設系産業廃棄物の 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進	
	・毎月の塵芥状況周知	
	・再利用物品 (資産リユース) 周知	
	・分別用ゴミ箱設置と徹底	
環境配慮のキャンパスライフ	・廃棄物管理票 (マニフェスト) の適正処理	21、36
	・千原キャンパスの主要箇所の花壇へ植栽実施	
	・キャンパス内の清掃活動の実施	
	・建物周辺の駐輪、駐車 の適正指導	
	・5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) 活動の推進	
	・日常の清掃活動の指導徹底	
	・建物周辺の草刈り活動、花壇の美化活動	

IV-1-3 第四期中期目標とその達成状況

(1) 中期目標 (2022 ～ 2027 年度) と達成状況 (マテリアルバランスに関するもの)

	環境側面 (要因)	方針 No (*1)	環境影響項目	KPI	2022-2027 目標	現時点の達成度
INPUT	エネルギー投入	7	電力消費量の削減	エネルギー消費原単位 (注 1)	累計 - 6%	累計 - 9.1%
			ガス使用量の削減			
			A 重油、ガソリン、軽油使用量の削減			
	物質投入	7	用紙類 (コピー用紙) の使用量削減	用紙使用量 (重量)	中長期期間の用紙類の使用量を抑制	累計 - 9.2%
	水資源投入	7	水使用量の削減	上水使用量	累計 - 3%	累計 -10.5%
OUTPUT	製品の購入	6、7	グリーン購入の促進	特定調達品目の適合品購入率	100%	100%
	化学物質の使用	7	化学物質使用量 (取扱量) の抑制	—	化学物質使用量 (取扱量) の適正化	研究基盤統括センターにて化学物質管理システム (CRIS) を用いた数値管理を実施
	二酸化炭素排出	7	二酸化炭素排出量の削減	単位床面積あたりの二酸化炭素排出量 (注 2)	累計 - 6%	累計 -11.9%
	廃棄物	6、7	一般廃棄物量 (可燃ゴミ、不燃ゴミ) の削減	—	リサイクル化の促進	リサイクル資源の収集活動の継続
	総排水量	7	産業廃棄物、特別管理産業廃棄物量の削減	—	感染性産業廃棄物 (注 3) の適正処理	適正処理を継続中
			感染性産業廃棄物量の減量化	—	累計 - 3%	累計 +1.4%
			総排水量の削減	—	—	—

(2) 中期目標 (2022 ～ 2027 年度) と達成状況 (その他)

環境側面 (要因)	方針 No (*1)	環境影響項目	中期目標
廃棄物管理	6、7	産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の管理	廃棄物の適正管理
化学物質管理	6、7	化学物質の安全・適正管理	化学物質の安全管理
環境教育・研究、環境保全活動等	1、2 3、4	環境教育・研究等	①エコマインドを持った学生を育成するためのカリキュラム編成 ②沖縄の特性を活かした自然生態系保全、環境技術及び教育・社会システムに関する学術研究の促進
		地域社会との連携	地域連携による環境理論・技術の応用及び成果の公表
		環境保全	キャンパスの環境・緑地保全の促進
環境マネジメントシステム	5、8	環境マネジメントシステムの構築、運用、維持	エコロジカル・キャンパスの PDCA サイクルの実施による継続的な改善
環境配慮のキャンパスライフ	4	受動喫煙防止	大学敷地内での喫煙禁止
		キャンパス内美化	キャンパス内美化の実施

*1 方針 No：各指標が「琉球大学環境方針」(p.2) において該当する項目を表す。
注 1 「本学の事業活動に必要なエネルギー単位」という指標。使用した電力・燃料などから換算したエネルギー消費量を「事業者が決める任意の単位 (本学では床面積)」で除したもの。
注 2 「本学の活動で発生した二酸化炭素の単位」という指標。使用した電力・燃料などを「事業活動に必要な形で利用するために発生した CO₂」として換算したもの。
注 3 医療関係機関等から生じ、人が感染するおそれのある病原体が含まれていたり付着している廃棄物等。

IV-2-1 琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会について

学内で「エコキャン」の名前で親しまれている琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会は、2012年12月に発足した団体であり、環境教育を主軸として身近な環境問題やSDGsに対する意識を高め、具体的な行動に移すことを目標に活動しています。また、学生個人が自身の得意分野を見つけ、興味関心を持ち、成長につながる場にもなっています。

現在、私たちは25名(2025年7月現在)で活動しています。所属メンバーは理学部、国際地域創造学部、人文社会学部、工学部、医学部、農学部、教育学部と多岐にわたる学部から集まり、1年次から4年次までの幅広い学年で構成されています。この多種多様な所属メンバーそれぞれの視点や行動力、個性を活かして、エコキャンでは学部・学科の垣根を越えた交流の中で議論を重ね、アイデアを生み出すことができています。また、実践に至るまでにたくさんの意見を交わすことで、より良い結果に繋げていくこともできます。さらに近年では他団体のビーチクリーンやゴミ拾い活動等にも参加しており、自治体や他大学との連携活動も積極的に行っています。今後もこの多様性を活かして、学内外を問わず環境活動の普及に務めていきます。



(1) 活動理念

- 学内外の環境に配慮した取り組みを知り環境問題を多角的に理解することで、学生が独自の発想で自律して行動できるようになる。
- 身近な環境への取り組みを知り環境問題の重要性を認識することで、地球環境を利用する当事者、また学生という立場から枠にとらわれない考えを実現していく。

(2) 活動目標

- リ・リパックなど学内での取り組みを啓発し、環境保全に対する意識を高める。
- クリーン活動などの企画を考案する中で目的(目標)の達成に必要な計画性や実行力を身につける。
- 積極的に情報を共有し、綿密な計画を立てて実行する能力を身につける。
- 楽しむことを意識してメンバーと協力し合いながら目標を達成する
- 学内外の清掃活動などを通じて、情報や理論だけでは得られない実践的な知識やスキルを身につけ、学びの深化を図る。

共同代表

- ：山口雄飛(工学部工学科機械工学コース3年次)
- ：具志堅徹弥(国際地域創造学部国際地域創造学科経営プログラム3年次)



インスタグラム

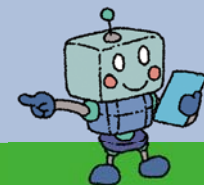


X(旧 twitter)



IV-2-2 学生委員会2024年度の主な活動

普段こういった活動しているの？



クリーン活動

エコキャンでは、前期・後期を通じてクリーン活動班を編成し、キャンパス内を清掃する「キャンパスクリーン活動」や海岸の清掃を行う「ビーチクリーン活動」などを行いました。この活動は、千原キャンパス内における景観の維持や、身近な環境問題に興味・関心を抱ききっかけの場を提供することを目的としています。

2024年度は、指導教員である大島順子准教授が担当する講義「環境インターンシップⅠ」の受講生と共同でキャンパスクリーン活動を行いました。また、中城村の吉の浦公園ビーチや津覇海岸で、ビーチクリーン活動を2回実施しました。ビーチクリーン活動では、海岸で見つかるガラス片であるシーグラスを採取して、キーホルダーやアクセサリといった小物を作成するアップサイクルにも取り組みました。

これらの活動を通して運営を行う学生からは、「企画の運営を通じて身近な環境問題を発見し、解決するためにすべきことを客観的な視点で把握することができた」などの声をいただきました。また、参加者からも、「学内でこのような環境活動をしていることを知って興味を持ち、実際に活動に参加したことで、普段気にかけなかった環境問題に興味を持つようになった」といった感想が寄せられました。

これらの活動は、エコキャンメンバーや学生にとって、ゴミ問題について考えることの重要性への理解を深める有益な機会となりました。



吉の浦公園ビーチでの集合写真



清掃活動の様子

リ・リパック回収&ペットボトルキャップ回収&コンタクトレンズの空ケース回収

エコキャンでは月1回程度のペースで、リ・リパックやペットボトルキャップの回収を行っています。リ・リパックとは琉球大学の生協で販売されている弁当箱のことで、リサイクルすると購入者に10円分のポイントが還元される仕組みです。

エコキャンはこのリ・リパックの仕組みを活用しようと、2018年度からリ・リパック回収ボックスを各学部や生協食堂に設置し、購入者によって寄付されたリ・リパックを回収しています。この回収によって還元されるポイントを寄付して有効活用しています。エコキャンでは、回収によって得られたポイントを、沖縄県の僻地医療支援に携わる「特定非営利活動法人メッシュサポート」様に寄付させていただいております。

また、回収したペットボトルキャップは「有限会社沖縄クリーン工業」様で再生素材としてバイクの部品、さくらクレパス、うちわなどに再利用されています。

さらに、2024年度から「アイシティ eco プロジェクト」と呼ばれる、コンタクトレンズの空ケースの回収も行っています。アイシティ eco プロジェクトは、使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収・リサイクルする取り組みであり、CO₂排出の削減や資源の有効活用を目指すプロジェクトです。

プロジェクト開始にあたり、中央食堂・北食堂・医学部がじゅまる会館の3か所に回収ボックスを設置しました。



リ・リパック回収と仕分けの様子



メッシュサポート様への寄付金贈呈



設置した回収ボックス



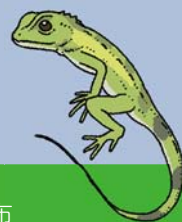
キャンパスエコツアー

キャンパスエコツアーは、エコキャンの学生が琉球大学内のエコな施設を参加者へ説明・紹介し、大学の環境活動への関心を持ってもらうことを目的とした取り組みです。このエコツアーでは、普段なかなか訪れることのない施設を見学し、何気なく利用している施設がどのように環境へ配慮しているのかを紹介しています。

参加者からは「普段気にしていなかった施設と環境の関わりを知ることができて面白かった」や、「自分の知らないところで環境に配慮した施設が稼働しているのを見ることができて興味深かった」といった感想が寄せられました。

近年、環境問題への関心が高まる中で、琉球大学がどのように環境への配慮を行っているかを知ってもらうことにより、琉球大学の魅力を実感してもらう良い機会となったと考えます。

他にはどんな活動をしたの？



4月

- ・新入生オリエンテーションにてエコキャンメンバー募集のチラシ配布

5月

- ・エコキャンの活動周知のため、琉球大学【公式】ラジオ「琉大やいび〜ん！」に出演
- ・『琉球大学環境報告書 2024』表紙制作

6月

- ・キャンパスクリーン活動の実施
- ・アイシティ eco プロジェクト開始

7月

- ・第18回環境マネジメント全国学生大会@公立鳥取環境大学
日程：2024年7月6日(土)・7日(日) 参加者：2名(対面)

環境マネジメント全国学生大会は、環境活動に取り組む全国の大学生が集まり、活動報告や意見交換を行う大会です。大学間の交流を通じて SDGs 達成に向けた活動を促進し、新たな活動の可能性を創造することを目的に、2007 年から毎年開催されています。

今大会では、他大学による SDGs 推進事例や、環境負荷低減に向けた多様な取り組みについて学習することができました。カーボンオフセットの仕組みや、日常生活の中での省エネ行動など、小さな工夫が温室効果ガスの削減に貢献することの重要性を、改めて認識することができました。なお、2025 年度に開催される第 19 回大会は、エコキャンが主催となり、琉球大学での開催が決定しました。

p.26 に第 19 回大会の様子を掲載しています！



大会参加者との集合写真



活動紹介の様子

8月

- ・琉大祭の準備：班ごとの打ち合わせや展示物の作成

9月

- ・琉大祭へ参加
日程：2024年9月21日(土)・22日(日)

〈出店内容〉

- ①シーグラスを用いた写真立ての作成体験や、シーグラスをアップサイクルした製品（キーホルダー・イヤリング・ピアス）の販売などを行いました。
- ②エコキャンの活動について知ってもらうためのコーヒーショップを運営しました。



写真立ての作成体験の様子



シーグラスで作成したイヤリング

- ・HESDフォーラム@千葉商科大学
日程：2024年9月23日(月) 参加者：学生4名 教員：1名(対面)

本会では、高等教育における環境教育について、大学機関の研究者と環境活動を行う学生間でお互いの活動・フォーラム研究内容の紹介や、ESD・SDGs の観点からそれらについて分析した結果や今後の課題などについて発表し、意見交換が行われました。

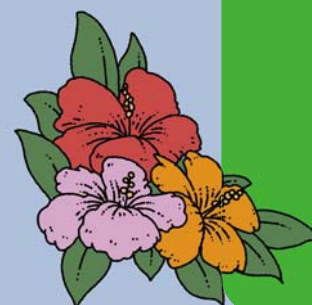
他大学との意見交換の場では、沖縄とは全く異なる環境で行われている活動について、互いに興味や関心を持ちながら意見を交わすことができ、非常に有益な機会となりました。また、これまであまり関わることのなかった商業系の持続可能性についても知見を深めることができ、自分たちの活動を見つめ直す良いきっかけとなりました。

11月

- ・JICA国際フェスティバルへの出展@JICA沖縄
日程：2024年11月24日(日) 参加者：学生4名

このフェスティバルは、沖縄県内の団体や JICA 沖縄が主催し、県民に国際協力・交流や SDGs への取り組みを紹介することを目的としています。エコキャンでは、ブースに訪れた 162 名の方々に活動紹介を行い、写真や説明資料、環境報告書などを展示しました。

今後は、展示内容の工夫やブースの魅せ方、来場者への声かけのタイミングなどを見直し、より多くの人に関心を持ってもらえるような工夫が必要であると感じました。



イベント会場入口



エコキャン出展ブース

12月

- ・イオン琉球チアーズクラブへのキャンパスエコツアーの実施



プロブナード



図書館

- ・エコプロ 2024 への出展 @ 東京ビッグサイト
日程：2024年12月4日(水)～6日(金) 参加者：学生6名 教員：1名

エコプロは、環境に配慮した製品・サービスを紹介する国内最大級の展示会であり、393 もの企業、NGO/NPO、公的機関・教育機関等が出展しました。

今回のエコプロでは、エコキャンの活動紹介に加え、「沖縄の海は本当にきれいなのか？」という懐疑的な視点をもとに、海に関する展示を行いました。展示では、私たちエコキャンがビーチクリーン活動で実際に拾ったゴミを紹介しました。また、来場者の方々にはクイズに参加していただき、その内容や私たちの説明を通じて、海の豊かさを守るために自分たちができることや、日常で心がけるべきことについて考えてもらう参加型企画を実施しました。



エコプロに参加したエコキャンメンバー



来場者に対して説明を行うエコキャンメンバー

1月

- ・2 回目のビーチクリーン活動の実施@中城村・吉の浦公園ビーチ



2月

- ・キャンパスエコツアー

2月12日(水)に、「観光地における環境教育」の授業履修者を対象としたキャンパスエコツアーを実施しました。今年度は、参加者により伝わりやすい内容となるよう、ツアー中に使用するスライド資料をすべて刷新し、視覚的にも理解しやすい構成を意識して作成しました。ツアーでは、図書館屋上のソーラーパネルや千原池の水の再利用など、学内で実施されている環境配慮の取り組みを紹介しながら、環境問題について参加者とともに考える機会を提供しました。

参加者からは「スライドが見やすくて印象に残った」「学内の取り組みを具体的に知ることが出来た」といった声が寄せられ、今回のツアーの改善が参加者の理解や意識の向上に貢献したと考えています。今後も伝え方の工夫を重ね、学内外への発信を継続していきます。



千原池の水の再利用について説明



図書館屋上ソーラーパネルの説明

- ・アイシティ eco プロジェクト：コンタクトレンズの空ケースを 3,990 個回収

3月

- ・リ・リパック回収に伴うデポジット金の 57,000 円を特定非営利活動法人メッシュ・サポート様に寄付いたしました。

4月

- ・2024 年度に回収したペットボトルキャップ 240.0kg (換算個数：103,200 個) を沖縄クリーン工業様へ寄贈



IV-2-3 「第19回環境マネジメント全国学生大会」を開催しました

私たち、琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会が主催した「第19回環境マネジメント全国学生大会」について報告します！

2025年6月28日(土)～29日(日)にかけて、琉球大学にて「第19回環境マネジメント全国学生大会」を開催しました。本大会は、全国の大学生が環境活動の実践を共有し、意見交換を通じて相互に学び合う場です。活動の幅を広げ、新たな取り組みのヒントを得ることを目的としています。

今年度は全国から10団体、延べ116名が参加し、「#35から紐解く環境×経済」をテーマに多様な視点から対話を深めました。

1日目は基調講演、各団体の活動発表、グループディスカッション、キャンパスエコツアーを、2日目は吉の浦公園ビーチにてビーチクリーンを実施しました。基調講演には、風化したサンゴを使用して焙煎したコーヒーやハイビスカスティーを提供し、売り上げの3.5%をベビーサンゴの移植活動に使用しているユニークなビジネスモデルで注目されている「ソーエイドー35コーヒー」様をお招きし、サンゴ白化に対する企業の取り組みの紹介や、CSV経営や環境と経済の両立をどう実現していくかについての貴重な話が聞けました。



ビーチをきれいに！

各団体の活動発表では、それぞれの地域課題に応じた活動を報告し、多岐にわたるテーマが展開され、活発に質疑応答を行いました。「他大学の工夫や取り組みを自分たちの活動にも応用したい」「視野が広がった」といった声が多く寄せられました。

グループディスカッションでは「環境と経済を両立するために新しい活動としてできそうなこと」を挙げてもらい、グループ内で1つに案を絞って実際にどのように実現できるかを考え、全体発表を行っていただきました。学生ならではの視点で率直な意見が飛び交い交流や学びのきっかけになりました。

今回の大会は、私たち琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会が初めて主催・運営を務め、企画立案から広報、各団体様との連絡、当日の運営までを一手に担いました。2024年12月から準備期間は約半年に及び、各団体様とのやりとりや基調講演者との調整、会場の確保、プログラム内容の決定など多くの工程を同時に進める必要がありました。

最も苦労したのは、大会のテーマ決定です。環境と経済という軸は早期に決まっていたものの、それをどのような言葉で表現するか悩み時間を要しました。テーマ決定の遅れは、全体のスケジュールが後ろ倒しになる要因となりました。

一方で、何より嬉しかったのは、大会終了後に参加者の皆さんから「楽しかった」「参加してよかった」と言っていたことです。他団体の活動や価値観に刺激を受けた、自分の団体でもやってみたいと思えるアイデアを得られたという感想を聞き、この大会が次の一步に繋がる場になったと実感しました。

今回の経験を通して、課題を一つひとつ乗り越える力や、多様な立場の人と協働する力が身につきました。参加者の皆さん、支えてくださった関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。これからも、持続可能な社会の実現に向けて、学生の立場から行動し続けていきます。



みんなで会場設営



各団体の活動発表



基調講演のあとに



ビーチクリーンお疲れ様でした

V 環境関連法令等の順守

V-1 環境関連法令等

環境省 化学物質情報検索支援システム『ケミココ』
<https://www.chemicoco.env.go.jp/laws.html>



本学の活動に関連する法令の一部を下記に示します。
次頁以降では、法に基づいた各取組を紹介していきます。

上位法・関連法	概要	法令名(略称含)	趣旨内容など	関連条約など
環境基本法 国内の環境政策の根幹を定める	公害対策	大気汚染防止法	当該公害の防止	
		水質汚濁防止法	当該公害の防止	
		下水道法	敷地外浄水場に汚水を漏れなく運ぶ	
		浄化槽法	敷地内で水を浄化する	
		土壤汚染対策法	当該公害の防止	
		悪臭防止法	当該公害の防止	
		騒音規制法	当該公害の防止	
		振動規制法	当該公害の防止	
	化学物質の環境配慮	化管法(PRTR法)	有害な化学物質の管理・排出を把握	
		化審法	特定の化学物質の使用・輸入を禁止	
	自然環境の保全	バーゼル法	特定有害廃棄物等の輸出入等の規制	バーゼル条約
		自然環境保全法	保全のための規制、保全計画の策定・実施など	
	自然物保護	自然公園法	特に優れた自然の風景地を保護と利用	
		生物多様性基本法	生物多様性の保全と持続可能な利用について	
	製品等への配慮	鳥獣保護法	鳥獣の保護や猟具の使用について	
		種の保存法	絶滅のおそれのある野生動植物の保護	ワシントン条約
環境教育		グリーン購入法	環境負荷の少ない製品を優先して購入する	
		グリーン契約法	入札など、契約相手の評価に環境配慮を加える	
		環境教育推進法	環境保全活動や環境教育の推進、協働取組の推進	
		環境配慮促進法	事業者は環境報告書などを通じて情報公開をする	

上位法・関連法	概要	法令名(略称含)	趣旨内容など
循環型社会形成推進基本法 「使い捨て」型の経済社会から脱却し、効率的な循環ができる社会を構築	廃棄物の削減・処理	廃棄物処理法	廃棄物の排出抑制、適正な処理
		資源有効利用促進法	3Rの取り組みを総合的に推進する
		容器包装リサイクル法	消費者：分別、市町村：収集、事業者：再商品化、と再利用の役割分担
		家電リサイクル法	家電製品(大型家電)から有用な部品を取り出して再利用
		小型家電リサイクル法	小型家電製品(情報機器類)から金属類を再利用
		建設リサイクル法	建設工事の廃棄物を分別・再利用する
		食品リサイクル法	食品廃棄物の発生抑制と減量化
		自動車リサイクル法	車を廃棄する際の環境負荷を減らし、必要なものを再利用する
		家畜排せつ物法	排せつ物の処理を定め、悪臭・河川の汚染を防ぎ、有効活用する
		PCB処理特別措置法	深刻な毒性を持つPCBを適切に管理・処理する
(特指法)			

概要	法令名(略称)	趣旨内容など
薬品等の安全管理	毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物の管理者と管理方法
	麻薬及び向精神薬取締法	麻薬及び向精神薬の取扱い
	アルコール事業法	アルコールの適切な取扱い
	薬機法	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保
事業所の安全	放射線障害防止法	放射性同位元素、放射線発生装置や汚染物の取扱い
	労働安全衛生法	労働者の安全・健康のために危害防止基準と責任体制を確立する
	消防法	火災を予防・警戒するための義務や体制
	高圧ガス保安法	高圧ガスによる災害防止のためのその取扱
	建築物衛生法	建築物における衛生的な環境の確保を図る

上位法・関連法	概要	法令名(略称含)	趣旨内容など	関連条約など
京都議定書・パリ協定 (特指法)	CO2排出の削減	地球温暖化対策推進法	CO2排出基準を定める。最新の改正で2050年までの脱炭素を明記	気候変動枠組条約
		省エネ法	燃料、熱、電気の効率的な利用	
		新エネルギー法	太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギー利用を促進する	

上位法・関連法	概要	法令名(略称含)	趣旨内容など	関連条約など
カルタヘナ議定書	遺伝子組換え	カルタヘナ法	遺伝子組換え生物等を使用等する際の規制措置	生物多様性条約
名古屋議定書	生物資源の配分	ABS指針	遺伝資源から生ずる利益の公正・衡平な配分	

上位法・関連法	概要	法令名(略称含)	趣旨内容など	関連条約など
モントリオール議定書	オゾン層保護	オゾン層保護法	フロン類の輸出入、製造管理について	ウィーン条約
		フロン回収・破壊法	フロン類の回収と再生・破壊(適切に分解する)について	

V-2-1 環境法令順守の取組状況 ―契約行為―

国等による環境物品等の調達に関する法律（グリーン購入法）

- 循環型社会の形成のためには、メーカーなどの「再生品等の供給面の取組」に加え、買い手側である「需要面からの取組」が重要となります。
- グリーン購入法は、国等の公的機関（国立大学法人も含む）が率先して環境物品等を購入して、その状況を公開することを定めています。
- 環境物品等とは、環境省が毎年公表する「基本方針」の判断の基準を満たしている製品・サービスをいいます。「原材料がリサイクルされているものかどうか」や「天然資源をとりすぎていないかどうか」などの観点から評価されます。
- 公的機関の長は、上記の基本方針に即した調達目標を毎年定めて公表する義務があります。

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/4b67e549e2bb68d9463bc2836db1d42c.pdf>
（琉球大学公式 HP > 大学情報 > 入札関連情報 > 環境物品等の調達実績の概要）

- 調達方針において、調達総量に対する基準を満足する物品等の調達量の割合により目標設定を行う品目については、すべて 100% を調達目標としていたところであり、調達を実施した品目について目標を達成しました。

■ 年度目標 [P18]

特定調達物品の調達目標を全分類で達成する



分 野	特定調達品目等の割合		達成状況
	目 標	実 績	
1 紙類（7 品目）	100%	100%	達成
2 文具類（85 品目）	100%	100%	達成
3 オフィス家具等（12 品目）	100%	100%	達成
4 画像機器等（10 品目）	100%	100%	達成
5 電子計算機等（4 品目）	100%	100%	達成
6 オフィス機器等（5 品目）	100%	100%	達成
7 携帯電話等（3 品目）	100%	100%	達成
8 家電製品（6 品目）	100%	100%	達成
9 エアコンディショナー等（4 品目）	100%	100%	達成
10 温水器等（4 品目）	100%	100%	達成
11 照明（3 品目）	100%	100%	達成
12 自動車等（8 品目）	100%	100%	達成
13 消化器（1 品目）	100%	100%	達成
14 制服・作業服（4 品目）	100%	100%	達成
15 インテリア・寝装寝具（11 品目）	100%	100%	達成
16 作業手袋（1 品目）	100%	100%	達成
17 その他繊維製品（7 品目）	100%	100%	達成
18 設備（11 品目）	100%	100%	達成
19 災害備蓄用品（15 品目）	100%	100%	達成
20 公共工事（70 品目）	100%	100%	達成
21 役務（20 品目）	100%	100%	達成
22 ごみ袋等（1 品目）	100%	100%	達成

V-2-2 環境法令順守の取組状況 ―化学物質の管理―

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法・PRTR 法）

(1) 化管法（PRTR 法）に基づく指定化学物質の管理

■ 年度目標 [P18]

化学物質使用量（取扱量）の適正化、化学物質の安全管理



単位 [kg]							
政令番号	化学物質名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
13	アセトニトリル	178.1	138.84	130.79	86.23	76.01	172.95
56	エチレンオキシド	—	—	—	48.00	0	0.00
80	キシレン	125.92	133.03	193.77	165.08	118.57	79.99
127	クロロホルム	285.77	190.27	90.11	160.63	97.64	38.13
186	ジクロロメタン	20.40	2.78	4.12	91.46	60.66	30.54
392	ノルマルヘキサン	259.02	228.73	143.56	164.16	154.45	170.37
405	ほう素化合物	5.67	4.90	3.13	12.76	1.62	6.31
411	ホルムアルデヒド	324.05	124.29	189.17	110.47	124.06	154.62
412	マンガン及びその化合物	2.31	2.01	0.50	4.14	0.71	5.88
438	メチルナフタレン	—	—	—	25	13	—
総計		1201.24	824.85	755.15	867.93	646.72	658.78

第一種指定化学物質の取扱量の推移

- データは化学物質管理システム（CRIS）による。
- 10kg 以上指定化学物質の取扱が発生した事業所の合計

(2) 実験系廃液の処理

単位 [kg]								
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
センター処理分	無機	水銀系廃液	162.1	122.0	185.21	111.21	86.23	199.94
		シアン系廃液	81.5	88.6	93.01	100.34	51.06	77.19
		フッ素・リン酸系廃液	0.0	－	－	－	59.28	28.74
		重金属系廃液	393.8	236.0	246.57	146.18	428.22	403.49
		酸・アルカリ性廃液	1,367.4	650.3	1,165.55	1,990.495	1,231.41	1,470.69
	有機	難燃性廃液	1,218.9	1,828.9	2,054.14	1,298.36	1,943.55	1,726.42
		難燃性廃液（難処理性混合廃液）	0.0	－	－	－	209.87	188.72
		可燃性廃液	4,036.5	3,907.0	3,422.44	2,772.638	2,510.045	2,559.74
		ハロゲン含有有機溶媒	0.0	－	－	－	－	－
		特定有害等有機溶媒	327.7	189.4	302.78	246.09	183.82	187.15
	固形	有害固形廃棄物（水銀汚染物）	9.9	10.1	19.27	3.66	5.606	1.46
		有害固形廃棄物	621.0	121.1	162.8	284.535	271.2	333.28
	その他	期限切れ	27.7	38.0	26	58	22	88.03
		水銀含有製品 / その他（試薬・不明物など）	－	163.6	48.71	41.42	0	7.955
部局等直接処分		8,334.0	3,642.1	2,270.347	2,705.625	159	1,965.36	
環境安全施設		－	2,214.0	－	－	－	－	
計		16,580.5	13,210.9	9,996.8	9,758.6	7,161.3	9,238.2	

実験系廃液の排出量の推移

- 廃液等は、学内ルールに従い指定容器に分別回収され、各排出責任者が提出する廃液物処理依頼カードとともに委託先の専門業者（回収・運搬並びに処分）へ引渡し、処分している。
- 2024 年度はキャンパス移転事業のため、例年の 4 倍以上の試薬の回収・廃棄があった。

V-2-3 環境法令順守の取組状況 ―医療系廃棄物―

■ 年度目標 [P18]

感染性産業廃棄物の適正処理

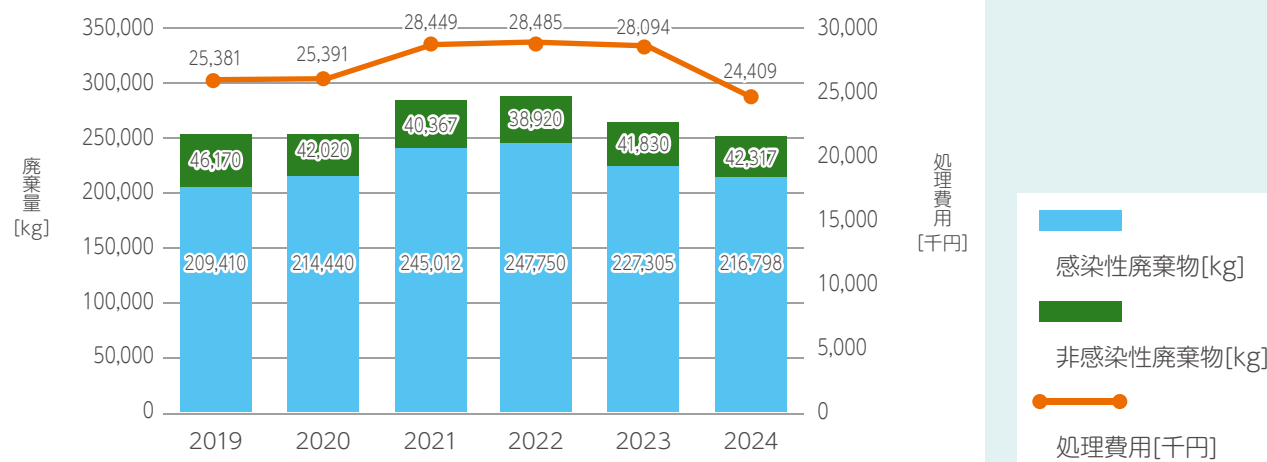
達成目標

■ 医療系廃棄物とは

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）

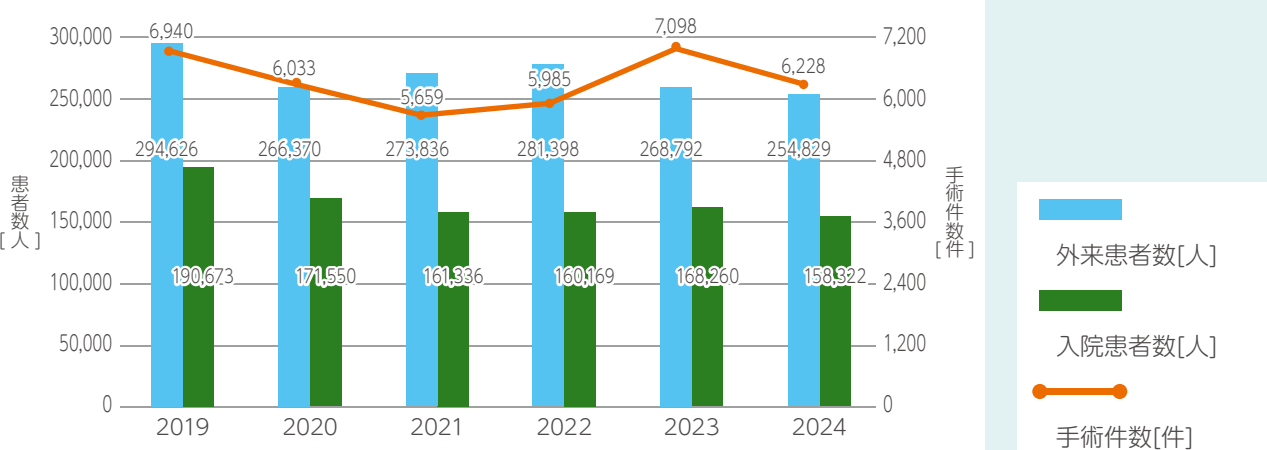
医療系廃棄物（感染性廃棄物）は人が感染する、若しくは感染するおそれのある病原体（感染性病原体）が含まれ、若しくは付着している廃棄物又はこれらのおそれのある廃棄物をいいます。（「環境省 HP 感染性廃棄物関連」より）

近年は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、医療品の取り換え頻度が増え、結果として医療行為件数減に対し排出量は増加しています。



医療系廃棄物排出量と処理費用の推移

- 医療系廃棄物は、県知事の許可を得た特別管理廃棄物収集運搬業者及び処分業者に委託処分しています。
- 最終処分の状況は、本学職員の定期的な立ち入りで、適切な処分がなされていることを確認しています。
- 新型コロナウイルスワクチン集団接種で生じた医療系廃棄物を含む



患者数・手術件数の推移

- 外来患者数・入院患者数は延べ数とする。

V-2-4 環境法令順守の取組状況 ―設備等―

■ 排水の水質管理

下水道法など

- 団地の排水は圧送ポンプ場を介して公共下水道に排出されます。
- これらの排水は月1回程度の水質検査を行うことで、水質保全に努めています。また、この調査により、化学物質が誤って下水道に流れ込んでいないか確認することができます。

■ ポリ塩化ビフェニル (PCB) の管理・処理状況

ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法

- PCB（ポリ塩化ビフェニル）は、化学的・物理的に安定した性質を持つ液体で、電気製品から食品製造時の熱媒体まで多岐に利用されていました。しかし、人体に蓄積されたときの深刻な健康被害（カネミ油症など）が判明し、現在は製造・輸入ともに禁止されています。
- PCBを確実に管理・処分を行うため、PCB処分を集中的に対処する「特措法」が整備され、各事業者は、集中管理・届出が義務付けられています。
- 2024年度においても、適時確認を行い、適切に管理・処理を行いました。

参考：経済産業省 HP PCB機器の処理促進について

■ 化学物質登録情報システム (CRIS)

化学物質排出把握管理促進法

- 琉球大学では、化学物質・混合物・高圧ガス等すべての試薬等をシステムに登録し、保管状況を管理しています。
- 特に、PRTR制度等にて指定される毒物・劇物・特定毒物については、使用の都度に使用記録（使用量など）を記録して、年1回の棚卸しの際に登録不備が無いか確認しています。

労働安全衛生法

- 年に2回、化学物質使用者を対象に、化学物質の安全な取扱いと管理及び実験系廃棄物の処理と回収の手続きに関する化学物質・廃液講習会を開催し、適正な管理を行っています。

■ 年度目標 [P18]

廃棄物の適正管理

達成目標

■ 建築物のアスベスト

大気汚染防止法・建築基準法など

- アスベスト（石綿）は、2012年には製造・新たな使用等が全面禁止されています。
- 本学では、2005年度にアスベスト含有調査を全建物を対象に行い、その結果、施設の利用者に影響を及ぼす可能性の高い、吹き付けアスベスト（飛散性）は使用されていないことが判明しました。
- そのほかの天井材、屋根や外壁に用いたスレート材に含まれる非飛散性アスベストについては、改修の際に順次撤去をしています。撤去の際には石綿障害予防規則を順守し、飛散防止対策を十分に講じています。

2024年度は、工学部3号館改修において、非飛散性アスベストの撤去を実施しました。

アスベスト調査結果一覧表（非飛散性のアスベスト含有材）
2025年3月現在

団地名	床面積 [m ²]		床面積の割合 = ① / ②
	含アスベスト床面積①	全床面積②	
千原	3,584	193,357	1.85%
上原	9,273	98,323	9.43%
その他	3,984	34,046	11.70%
合計	16,841	325,726	5.17%

※ 0.1%以上の非飛散性アスベストが含まれる場合、含アスベストとする。
※ 飛散性アスベストは不検出



アスベスト含有材の湿潤および撤去状況



撤去前の飛散防止対策状況（養生）



V-2-5 環境法令順守の取組状況 —安全衛生—

安全衛生委員会について

琉球大学では、安全衛生管理体制を確立し、総括安全衛生管理者を筆頭に、産業医及び衛生管理者、学部等から選出された委員などで構成する安全衛生委員会を中心として安全衛生管理体制を構築しています。

安全衛生委員会では、構成員（学生、教職員）が安心・安全かつ健康的に修学・就労できる快適な環境を維持するため、学内における危険箇所や課題、構成員の健康・衛生環境上の留意事項並びに改善対策などについて話し合っています。

（１）安全管理のための点検・指導

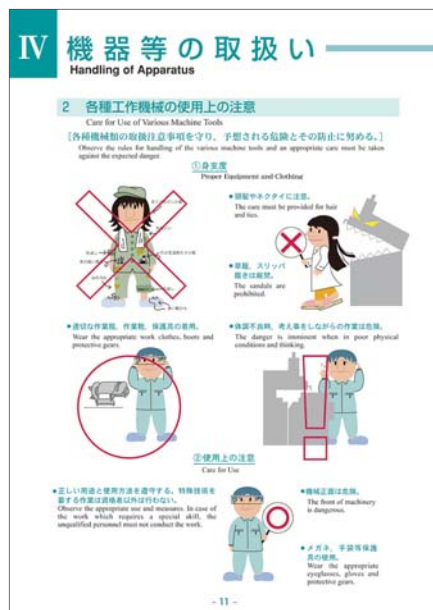
就労環境に係る危険箇所や課題に関しては、産業医及び衛生管理者による職場巡視を行い、実験室や研究室、事務室その他屋外施設等において、就労に支障を与えるおそれがある事項について指摘した上で改善のための指導助言を行い、快適な就労環境の保持に努めています。

（２）安全衛生マニュアルの発刊

本学では、全学における安全と衛生に関わる基礎的な知識や技術についてイラストや図表を用い、種々の事例をわかりやすく説明した「安全衛生マニュアル」を発行しており、受動喫煙防止対策や新たな感染症対策など最新の知見についても周知・啓発すべく内容の充実に努め、学外から閲覧できるよう本学公式ホームページで公開しています。

（３）敷地内全面禁煙の取組

望まない受動喫煙防止のための取組として、本学は2020年4月以降、学長による「琉球大学キャンパス全面禁煙宣言」のもと、「国立大学法人琉球大学敷地内全面禁煙に関する指針」に基づき、敷地内全面禁煙を実施しており、禁煙パトロール活動と併せて禁煙サポート（実施主体：保健管理センター）により、構成員の禁煙・卒煙に向けた努力を支援する活動に取り組んでいます。



安全衛生マニュアル（左：表紙 右：イラストや英語併記で説明）

敷地内全面禁煙ポスター

VI 評価

外部評価

評価実施者

沖縄国際大学名誉教授
宮城 邦治



評 価

カラフルな表紙は今の沖縄の海だろうか？それとも古き沖縄の海だろうか？そんな疑問の中で報告書のページを開きました。この数年、猛暑などの気象現象は明らかに地球の温暖化を私たちに体感させています。その大きな要因が大気中に放出される二酸化炭素であることは自明です。そして、最も負の影響を受けているのは生命が誕生した広大な海洋です。今、瀕死の地球環境を救うには、いかに二酸化炭素の排出量を減少させるかが重要です。

貴報告書ではエネルギーなどの資源投入量と環境負荷量をマテリアルバランスとして可視化しています。今年度の総エネルギーの投入量は前年比の90.9%と減少していることから、二酸化炭素の総排出量も前年比の86.9%と大幅に減少しています。個別的には電力と都市ガスの消費量も前年比でそれぞれ減少していますが、A重油消費量に伴う硫黄酸化物の排出量は大幅な増加となっており、その要因の解析が必要です。他方、水資源や複写機用紙などは前年比で、その投入量が減少しており、マテリアルバランスから見える貴大学の真摯な取組みと対策は大いに評価できるものです。

学生委員会は「第19回環境マネジメント全国学生大会」を開催するなど、その活動はめざましく、学生委員会のメンバーが作成したカラフルな表紙は、未来永劫に残る沖縄の海だと理解しました。（了）

内部評価

評価実施者

工学部 工学科 電気システム工学コース
（地域創生研究センター長）
教授 千住 智信



評 価

今回発行された琉球大学の2025年度環境報告書に関して内部評価を実施した。II章の大学概要では、法人情報、法人組織、キャンパスマップ等が記載されており、沖縄県に散らばって存在する全ての施設を三次元図面で分かりやすく示されている。與那フィールドは私もこれまで訪問したことが無いが、上空写真も示されており、施設の全景が確認できる。

III章の環境負荷の章では、1年間で利用された消費電力、都市ガス、A重油の熱換算総エネルギー投入量と全学の活動に伴うCO₂排出、硫黄酸化物、下水、一般廃棄物、化学薬品廃棄量がそれぞれ示されている。各種投入エネルギー量と各種排出量が示され、さらに前年比の増減率が表示されていることで、活動の状況が一目で理解される。

IV章では、環境活動の概要が示されており、年度目標と達成状況がまとめて表記され、環境報告書に記載された環境活動の取組詳細の該当頁が一目で確認されることは工夫されている点である。

V章の環境関連法令等の順守に関する情報提供は、法人運営上重要な事項であることから構成員への周知は非常に重要である。V-2-4では、学内の環境法令順守の取組状況が記載されており、学内外に向けた重要な情報公開であるといえる。今後も環境法令順守に向けた活動を確実に推進されることを希望する。

VII 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」との対照表

環境報告ガイドラインの基礎情報		該当内容	記載ページ
環境報告の基本的事項			
1 環境報告の基本的要件	報告対象組織の範囲、対象期間、適用ガイドライン	もくじ	
2 主な実績評価指針の推移	KPI や重点的に取り組む実績評価指標（環境負荷）	10-17	
環境報告の記載事項			
1 経営責任者のコミットメント	学長メッセージ	1	
2 ガバナンス	環境憲章、環境方針、エコロジカル・キャンパスの実施体制	2、9	
3 リスクマネジメント	環境負荷の考察、汚染予防・安全管理（法令順守）	10-17、27-32	
4 バリューチェーンマネジメント	グリーン購入法	28	
5 長期ビジョン	学長メッセージ、環境憲章、環境方針	1-2	
6 戦略			
7 重要な環境課題の特定方法	資源・エネルギー投入量、環境負荷物質等の排出量	10-17	
8 事業者の重要な環境課題	環境憲章、環境方針、資源・エネルギー投入量、環境負荷物質等の排出量、環境保全のコストと効果、中期目標・年度目標	2、10-17、18-19	
主な環境課題とその実績評価指標			
1 気候変動	CO ₂ 排出量、SO _x 排出量	12-13	
2 水資源	水資源使用・排出量、水質管理	14	
3 資源循環	リサイクル資源排出量、化学物質の投入量・排出量、学生委員会活動、グリーン購入法	15-16、20-26、28	
4 化学物質	化学物質の投入量・排出量、関連法規の遵順守状況、化学物質の管理	16、27、29	
5 汚染予防	水質管理、廃棄物排出量、学生委員会活動、医療廃棄物の管理、PCB 廃棄、アスベスト処理、美化活動	14-15、20-26、30-31、36	

◆琉球大学環境報告書2025 ダイジェスト版について

環境報告書の内容をまとめたダイジェスト版（日本語・English Version）もあります。ぜひこちらをご覧ください。



◆琉球大学の主な刊行物の紹介

本学の刊行物の一部を紹介いたします。琉球大学をさらに詳しく知ることができます。



『琉球大学
統合報告書』



『琉球大学
概要データ版』



『キャンパス
ファシリティ
ガイダンス』



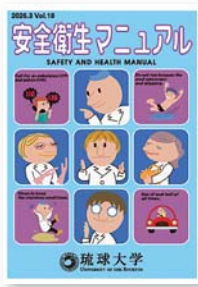
『News Letter』



『大学案内』



『安全衛生
マニュアル』



琉球大学公式SNS



@univ.ryukyu



@univ_ryukyu

◆アンケートへご協力ください！

「琉球大学環境報告書 2025」をご覧ください、誠にありがとうございます。今後の環境報告書作成の参考とさせていただきたく、皆様の貴重なご意見・ご感想をぜひお寄せくださいますようお願い申し上げます。
(所要時間：2～3分)
<https://forms.office.com/r/7MhqHpQfeq>



◆エコフリンデー 2024 の実施状況

環境に配慮したキャンパスライフを構築のため、全学一斉清掃（エコフリンデー）を11月20日（上原キャンパスは7月9日）に実施しました。
教職員・学生・保護者等、合計で1,064人の参加がありました。



＝ 沖縄在来植物の植え付け ＝

エコフリンデー 2024 に合わせ、施設運営部職員にて大学構内に沖縄在来植物であるクロイワザサの植え付けを行いました。

植え付けのための笹の株は、学内で株分けを行い増やしています。



まずは植え付け場所の草刈りから



花も植えました



株分けの仕方を習います



手分けして作業



普段通る道もきれいに



きれいなキャンパスになりました

◆千原キャンパス・西普天間キャンパスの植栽のようす



千原
キャンパス

西普天間
キャンパス



表紙制作にあたって

こんにちは。琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会です。
今年も環境報告書の表紙制作を担当させていただきました。
今年の表紙に込めた思いを紹介したいと思います。

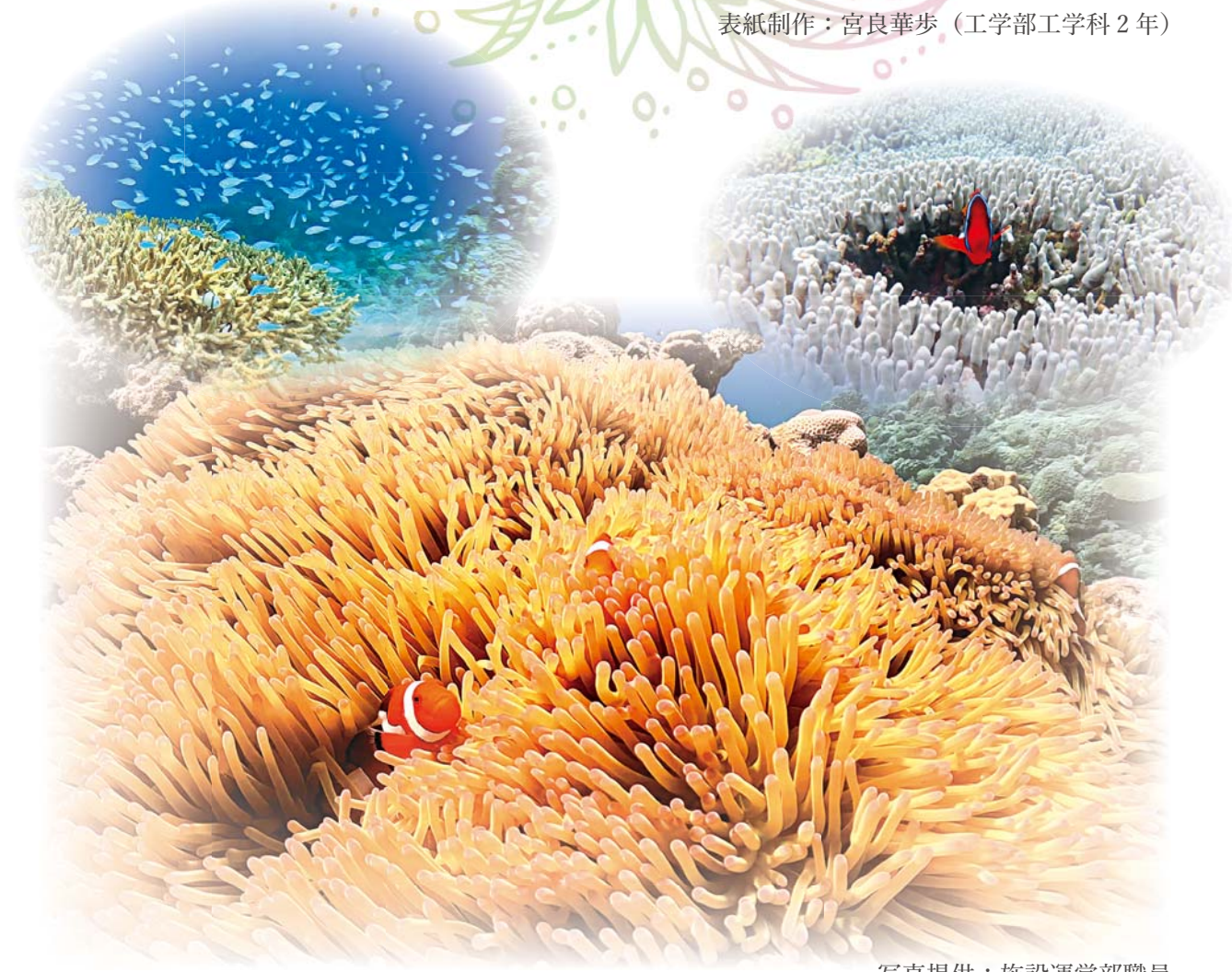
今年度の環境報告書の表紙は、サンゴが織りなす沖縄の海をイメージしました。沖縄には世界に約800種あるサンゴのうち、およそ200種類が生息しており、その豊かさは国内随一です。サンゴ礁は熱帯魚やウミガメなど多様な生物のゆりかごであり、漁業や観光業を支えるとともに、私たちの暮らしを守る大切な土台となっています。

しかし近年、地球温暖化に伴う海水温の上昇や異常気象によって、沖縄のサンゴは年々減少傾向にあります。その影響は生態系にとどまらず、観光業や地域経済にも大きな打撃を与えかねません。サンゴを守ることは、美しい自然環境を守るだけでなく、沖縄の未来そのものを守ることにつながります。

本年度、琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会では、初めて「第19回環境マネジメント全国学生大会」を主催・運営しました。大会テーマは「#35から紐解く環境×経済」。このテーマのもと、環境保全と経済活動の両立をどう実現していくかが議論されました。サンゴはその象徴とも言える存在です。

琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会は、本大会を通して、環境と経済活動の両立の重要性を再認識することができました。私たち若い世代が、沖縄にとって唯一無二の資源であるサンゴを未来へと守りつないでいく、そのような思いを込めています。

表紙制作：宮良華歩（工学部工学科2年）



写真提供：施設運営部職員



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

琉球大学施設運営部

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL:098-895-8178 FAX:098-895-8077

E-mail : kankyo@acs.u-ryukyu.ac.jp

ホームページ <http://ecocampus.jim.u-ryukyu.ac.jp>

